

令和7年度

豊田市教育国際化推進連絡協議会

# 専門委員会活動報告集

第38集



# 目 次

## I 豊田市教育国際化推進連絡協議会について

- ・ 豊田市教育国際化推進連絡協議会会則・・・・・・・・・・ 1～2
- ・ 令和7年度豊田市教育国際化推進連絡協議会事業計画・・・・・・・・ 3
- ・ 資料1：組織と活動 資料2：ユニットアシスト制・・・・・・・・ 4  
資料3：研修ブロックリーダーの活用, 成果と課題・・・・・・・・ 5
- ・ 豊田市教育国際化推進連絡協議会役員・・・・・・・・・・ 6
- ・ 豊田市教育国際化推進連絡協議会専門委員会委員・・・・・・・・ 7

## II 令和7年度 専門委員会活動報告

- 1 調査委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1～14
- 2 帰国出国サポート委員会・・・・・・・・・・・・・・・・ 1～10
- 3 外国人児童生徒等支援委員会・・・・・・・・・・・・ 1～ 8
- 4 国際理解委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1～ 4
- 5 研修委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1～ 6

# 豊田市教育国際化推進連絡協議会 会則

## 第1章 名称及び事務局

第1条 本会は、豊田市教育国際化推進連絡協議会(略して国際協)と称する。

第2条 本会の事務局は、豊田市教育委員会学校教育課に置く。

## 第2章 目的及び事業

第3条 本会は、豊田市の教育国際化を推進するため、帰国児童生徒及び外国人児童生徒等の個に応じた特色ある教育活動のあり方及び一般生徒との相互啓発による国際理解教育の推進のあり方について学校と地域との連携により研究実践を行うことを目的とする。

第4条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 市内における帰国児童生徒・外国人児童生徒等の実態調査
- (2) 帰国児童生徒・外国人児童生徒等の実態に応じた受入指導
- (3) 帰国児童生徒・外国人児童生徒等に対する適応相談
- (4) 学校間の情報交換と連絡協議, 担当者の研修
- (5) 教育センターへ研究・実践資料の提供
- (6) 海外に滞在する豊田市から転出した児童生徒に対する学習相談
- (7) 国際化推進, 国際理解教育にかかわる教育課程・指導法の研究
- (8) その他目的達成に必要な事項

## 第3章 会員及び役員

第5条 本会の会員は、豊田市の次の機関, 団体の構成員とする。

- (1) 豊田市教育委員会
- (2) 各小・中学校及びこども園
- (3) 高等学校
- (4) 海外進出している企業及び外国人労働者を雇用している企業
- (5) 国際交流組織
- (6) 豊田市役所関係部署
- (7) 国際理解教育や外国人児童生徒等教育に関わるNPO法人

第6条 本会に次の役員・理事・専門委員を置く。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 2名
- (3) 理事 若干名
- (4) 専門委員 若干名

第7条 本会の役員・理事・専門委員の任務は、次の通りとする。

- (1) 会長は本会を代表し、会務を総括する。
- (2) 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときは代行する。
- (3) 理事は、年間事業計画等、重要事項の審議ならびに研究・推進の全体調整・連絡にあたる。
- (4) 専門委員は本会の事業・研究・実践にあたる。

第8条 役員・理事・専門委員の選出は、次の通りとする。

- (1) 理事は会員のうちから選出する。
- (2) 会長・副会長は理事のうちから選出し、理事会で承認を得る。
- (3) 専門委員長は、理事のうちから選出し、理事会で承認を得る。
- (4) 専門委員は、会員のうちから選出し、理事会で承認を得る。

第9条 役員・理事・専門委員の任期は1年とする。但し、再任は妨げない。

第10条 庶務・会計は、豊田市教育委員会学校教育課の職員とする。

第11条 本会に顧問を置くことができる。

#### 第4章 会 議

第12条 本会の会議は、理事会、専門委員会(調査、帰国出国サポート、外国人児童生徒等支援、国際理解、研修)とする。

- (1) 理事会は、事業計画・事業報告・重要事項等を審議し、会員に報告する。
- (2) 専門委員会は、必要に応じて開催し、事業の企画・実践・運営・とりまとめにあたる。

#### 第5章 会 計

第13条 本会の経費は、市費による。

#### 第6章 会則の改正

第14条 本会則を改正するには、理事会で承認をうける。

#### 附 則

本会則は、昭和63年7月1日から施行する。

平成 5年	一部改正	外国人子女に関する件
平成10年	一部改正	帰国子女を帰国児童生徒に、外国人子女を外国人児童生徒に名称変更
平成11年	一部改正	会員に関する件 (※国際交流協会が参加) 専門委員会に関する件 (※外国人児童生徒委員会を追加)
平成13年	名称改正 一部改正	豊田市教育国際化推進連絡協議会に名称変更 目的および会員に関する件 (※外国人児童生徒教育を含めた目的及び事業に変更) (※担当者の研修を追加)
平成14年	略称改正 一部改正	国際協に略称変更 会員に関する件 (※副会長を2名に変更)
平成18年	一部改正	会員に関する件 (※外国人労働者を雇用している企業を追加) 役員・理事・専門委員の選出に関する件 (※理事の教育委員会議での承認) 会議に関する件 (※総会、役員会を廃止)
平成22年	一部改正	役員・理事・専門委員の選出に関する件 (※理事の教育委員会議での報告)
平成24年	一部改正	会議に関する件 (※専門委員会名称変更)
令和 元年	一部改正	会員及び役員に関する件 (※NPO法人を追加)
令和 3年	一部改正	外国人児童生徒を外国人児童生徒等に名称変更
令和 5年	一部改正	第4条(6) 指導資料の提供を削除 (令和6年度より) 第12条 専門委員会の再編成と名称変更 (令和6年度より)
令和 6年	一部改正 名称改正	会議に関する件 (※専門委員会の統合、名称変更) 目的および会員に関する件 (※指導資料の提供の削除)

## 令和7年度豊田市教育国際化推進連絡協議会事業計画

＜令和7年度重点取組項目＞

豊田市教育国際化推進連絡協議会専門委員会で実施する「ユニットアシスト制」の活用強化

ア 専門委員会とユニット校, ユニット校同士の連携強化を図るシステムの活用

イ 研修ブロックリーダーを中心としたユニット校へ各専門委員会の取組についての情報提供

ウ 各専門委員会の活動を生かしたとユニット校での研修等の実施

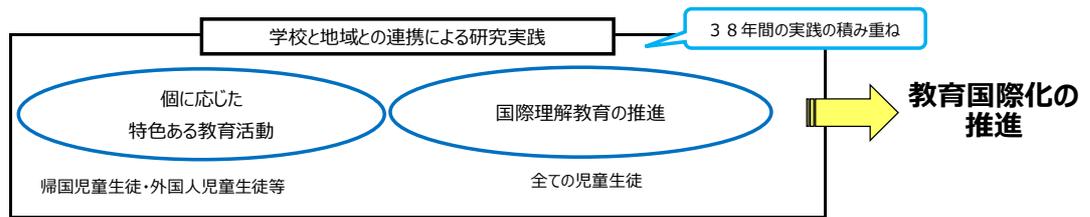
専 門 委 員 会 名	事 業 内 容
調査委員会	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 帰国児童生徒・外国人児童生徒等の実態把握</li> <li>2 帰国児童生徒・外国人児童生徒等の指導上の課題把握</li> <li>3 国際理解活動実施状況調査</li> <li>4 専門委員会活動報告集（第38集）発刊</li> </ol>
帰国出国サポート委員会	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 帰国児童生徒等保護者懇談会等の実施 期日：令和7年8月2日（土）午前開催</li> <li>2 相談窓口の継続</li> <li>3 相談内容や情報Q&amp;Aのまとめ</li> </ol>
外国人児童生徒等支援委員会	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 外国人児童生徒等保護者教育説明会の実施 期日：令和7年7月19日（土）午前開催</li> <li>2 各種情報提供用のリーフレット等作成・配布 ※進路指導資料の作成 ⇒ 進路指導部会との連携</li> </ol>
国際理解委員会	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 国際理解教育の推進 ⇒ 調査委員会の資料を活用した「国際理解教育」指導案等の整理</li> <li>2 豊田市の国際化の現状把握と外国人児童生徒等への理解の推進</li> </ol>
研修委員会	<p>外国人児童生徒等指導者研修会の開催（年3回）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人児童生徒等教育の課題把握</li> <li>・日本語指導・教科学習に関する研修</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 6月10日（火）開催 13：30</li> <li>② 8月19日（火）開催 10：00</li> <li>③ 11月28日（金）開催 14：00</li> </ol>

# 資料1 組織と活動

## 豊田市教育国際化推進連絡協議会

### ①国際協 組織と活動

○目的



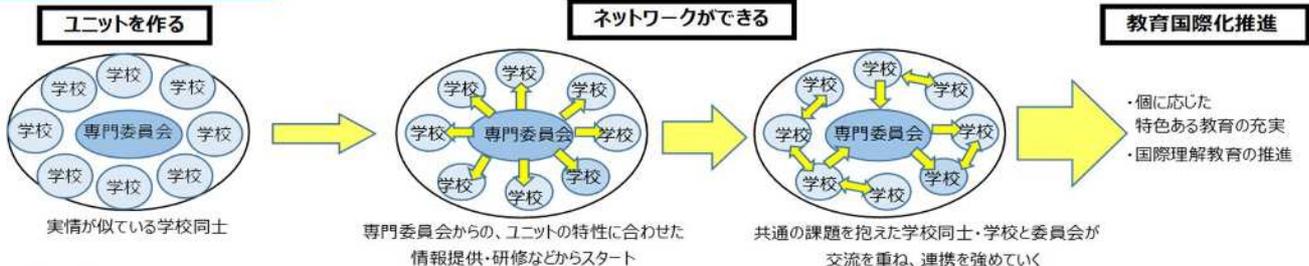
○組織と活動



# 資料2 ユニットアシスト制

## ユニットアシスト制とは

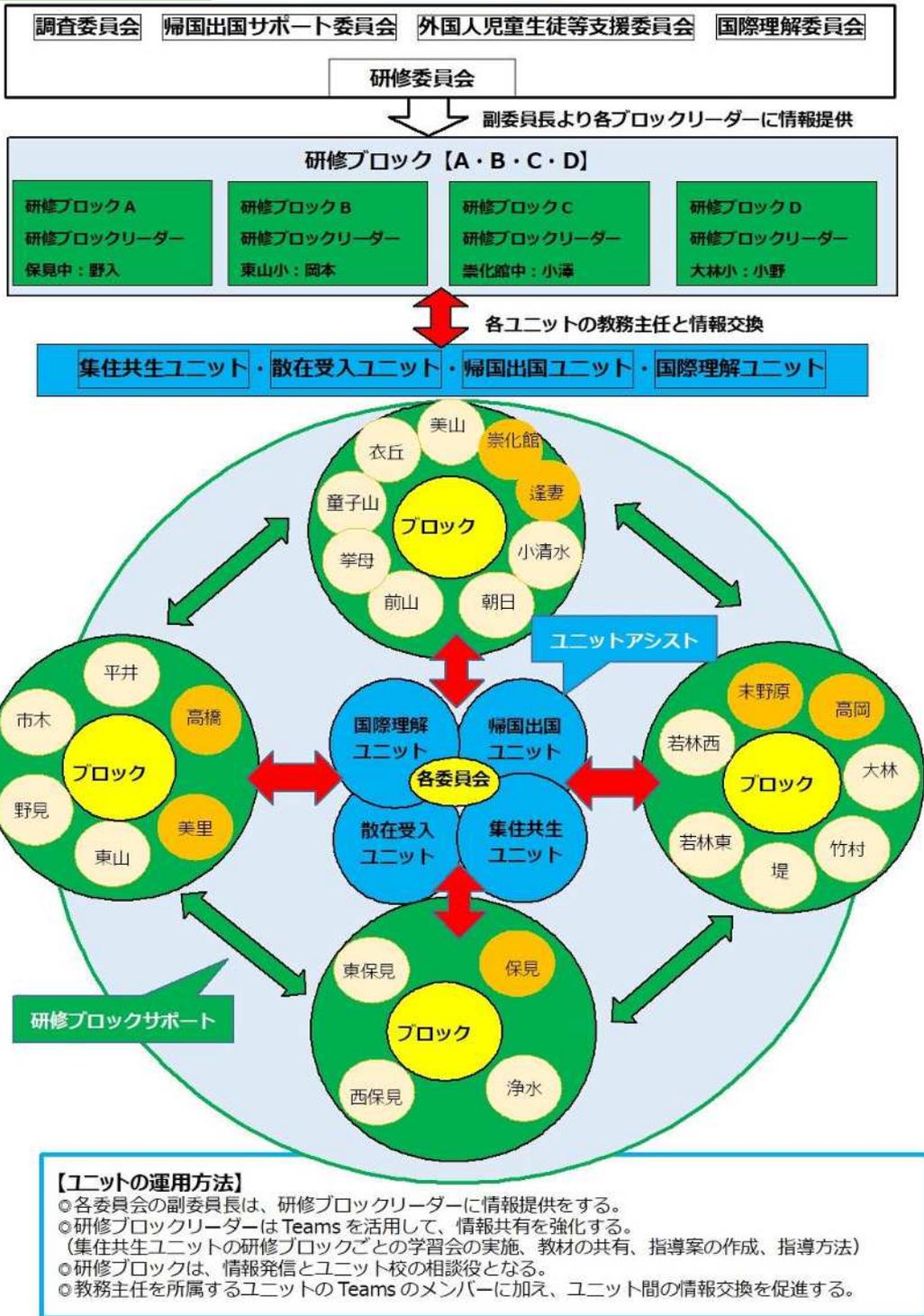
…学校同士の連携と専門委員会のサポートによる豊田市独自の教育支援の仕組み



### 【ユニット】

特別な教育課程を編成している (日本語教育課の学級担任 教員配置あり)	特別な教育課程を編成している (学校日本語指導員の配置あり)	特別な教育課程を編成していない	外国人児童生徒が 3人以上	外国人児童生徒が 1~2人	外国人児童生徒が 0人
<b>I 集住共生ユニット</b>	<b>II 散在受入ユニット</b>		<b>III 国際理解ユニット</b>		
西保見 保見中 東保見 山之手 浄水 寺部 東山 美里中 平井 高橋中 市木 若園 野見 駒場 拳母 崇化館中 美山 蓬妻中 朝日 西広瀬 衣丘 元城 童子山 梅坪 小清水 四郎 前山 広川台 大林 未野原中 若林東 高岡中 若林西 井上 堤 20校 竹村 7校 19校	土橋 豊南中 平和 上郷中 石巻 浄水中 石巻 石巻中 飯野 朝日丘中 中山 藤岡中 藤岡南中 梅坪台中 前林中 電神中 松平中 井郷中 若園中 操投台中 猿投中 益富中 15校	五ヶ丘 道慈 道分 花山 4校 2校 寿恵野 加納 小原中 小原中部 岩倉 浄水北 5校 1校	飯部 九久平 大沼 則定 中金 大畑 稲武 稲武 7校 1校	矢並 冷田 東広瀬 佐切 上蔵見 萩野 幸海 明和 滝脇 新盛 豊松 小渡 五ヶ丘東 巴ヶ丘 御作 大蔵 本城 御蔵 足助 敷島 20校 2校	童子山 朝日丘中 山之手 崇化館中 梅坪 上郷中 衣丘 浄水中 衣丘 豊南中 浄水北 未野原中 浄水北 ※他のユニットと兼ねる

集住共生ユニットを4つのブロック (A・B・C・D) に分ける  
 ⇒ブロックごとに研修ブロックリーダーを設定  
 ⇒研修ブロックリーダーが各ブロックと各ユニットをサポート (資料3)



### 「ユニットアシスト制」の成果と課題

- ・令和7年度の重点取組項目を令和4年度に導入した「ユニットアシスト制」の活用強化とし、各専門委員会と学校との連携強化を図った。
- ・研修ブロックリーダーを中心に、集住共生ユニットを中学校区ごとに分け、ブロックで研修を実施した。また、教務主任を所属するユニットの Teams のメンバーに加え、ユニット間の情報交換を促進する。それぞれのブロックの児童生徒の実態に即したテーマについて、研鑽を積むことができた。
- ・外国にルーツをもつ児童生徒等が増加していることや散在化していることを踏まえ、今後もユニットアシスト制を活用し、各専門委員会と学校が連携し、教育国際化を推進していく。

令和7年度 豊田市教育国際化推進連絡協議会役員

役職名	氏名	職名
会長	山本 浩司	豊田市教育委員会 教育長
副会長	仲田 英成	豊田市小中学校長会 会長
	西村 仁志	トヨタ自動車 人事部 総括室長
理事	鈴木 孝文	愛知県立豊田西高等学校長
	杉本 明隆	愛知県立衣台高等学校長
	山崎 秀哲	トヨタツーリスト 海外営業企画部 海外子女教育相談カウンセラー
	阪峯 秀明	豊田市国際交流協会専務理事
	北野 雄也	トヨタ自動車労働組合 労働政策局長
	伊東 浄江	NPO法人 トルシーダ代表
	尾坂 宏樹	豊田市立平井小学校長
	北島 加奈子	豊田市立駒場小学校長
	岩井 武彦	豊田市立西保見小学校長
	小川 敬子	豊田市立東保見小学校長
	佐藤 正一	豊田市立保見中学校長
	前田 昌代	豊田市こども園長会 会長
	小澤 真里	豊田市地域活躍部 多様性社会共創課長
	相田 祐里	豊田市こども・若者部 保育課長
事務局	岸本 勝史	豊田市教育委員会 学校教育課長
	山本 尚樹	豊田市教育委員会 学校教育課指導主事
	渡邊 温嫁	豊田市教育委員会 学校教育課指導主事
	平吹 洋子	外国人児童生徒等サポートセンター アドバイザー
	森 友里那	豊田市教育委員会 学校教育課主査

令和7年度豊田市教育国際化推進連絡協議会 専門委員会 委員

委員会名		氏名	勤務先	役職	
調査委員会	◎	尾坂 宏樹	平井小	校長	
	○	黒田 浩司	大林小	教頭	
		孕石 しのぶ	朝日小	教務	
		光安 舞	野見小	教諭	
帰国出国サポート委員会	◎	岩井 武彦	西保見小	校長	新
	○	近野 義徳	美里中	教頭	
		兼原 昌治	拳母小	教務	新
		後藤 真理子	竹村小	教諭	
		油井 徳子	浄水小	教諭	
		宇野 智子	国際交流協会	主査	
外国人児童生徒等支援委員会	◎	小川 敬子	東保見小	校長	
	○	村瀬 春奈	堤小	教頭	新
		森 眞至	平井小	教務	
		森 博臣	末野原中	校務	
		加藤 佑樹	高橋中	校務	新
		田畑 二キ	東保見小	教諭	
		金田 宗之	松平中	教諭	新
		吉本 美佐穂	多様性社会共創課	担当長	新
国際理解委員会	◎	北島 加奈子	駒場小	校長	
	○	近藤 清人	朝日丘中	教頭	新
		平岩 紘一	市木小	教務	
		中野 英里	前山小	校務	新
		松本 友美	西保見小	教諭	
		松田 恵子	高岡中	教諭	新
研修委員会	◎	佐藤 正一	保見中	校長	
	○	岡崎 達郎	末野原中	教頭	新
		岡本 真明	東山小	教務	
		中島 麻恵	西保見小	校務	
		小澤 信弥	崇化館中	教諭	
		野入 はる香	保見中	教諭	
		小野 高明	大林小	教諭	

◎委員長 ○副委員長

# 1 調査委員会活動報告

## I 調査結果の概要

- 1 過去3年間に帰国した児童生徒の概要
- 2 豊田市立の小・中学校に在籍している

外国人児童生徒の概要

## II 豊田市における帰国児童生徒の実態

- 1 帰国児童生徒数及び在留期間別人数
- 2 帰国時の学年
- 3 在留国での就学状況
- 4 帰国児童生徒の推移
- 5 地域別・在留国別学年人数
- 6 中学校区別 帰国児童生徒数
- 7 帰国児童生徒に関するアンケート結果

## III 豊田市における外国人児童生徒の実態

- 1 学年別外国人児童生徒数
- 2 外国人児童生徒数の変遷
- 3 外国人生徒の中学校卒業後の進路
- 4 中学校区別外国人児童生徒の在籍状況
- 5 外国人児童生徒に関するアンケート結果

## IV 令和7年度 国際理解教育に関する実態調査（結果）

## I 調査結果の概要

豊田市教育国際化推進連絡協議会の調査委員会では、帰国児童生徒(過去3年間に帰国)と、外国人児童生徒(豊田市立の小中特別支援学校に在籍)を対象に、市内全小中学校と該当児童生徒の保護者の協力を得て、その実態調査を実施している。

2025年度の調査結果は以下のとおりである。

### 1 過去3年間に帰国した児童生徒の概要(2025年5月1日現在)

#### (1) 過去3年間に帰国した児童生徒数

	2024年度	2025年度	昨年比
小学校	197	188	-9
中学校	78	93	15
合計	275	281	6

#### (2) 主な滞在国と児童生徒数

アメリカ	111	中国	67	ベルギー	27	タイ	32	カナダ	9
メキシコ	7	インドネシア	7	トルコ	5	ドイツ	4	その他のアジア	3
シンガポール	2	フィリピン	2	ポーランド	1	マレーシア	1	南アフリカ共和国	1

#### (3) 主な在籍校と児童生徒数

小学校40校 188人	浄水小	28	山之手小	13	浄水北小	12	童子山小	9
	梅坪小	8	駒場小	8	美山小	7	寺部小	7
	小清水小	6	衣丘小	6	寿恵野小	6	堤小	6
	若園小	5	大林小	5	青木小	5	前山小	5
中学校19校 93人	浄水中	22	朝日丘中	12	逢妻中	8	末野原中	7
	豊南中	6	竜神中	6	高橋中	5	上郷中	4
	藤岡南中	4	前林中	3	高岡中	3	崇化館中	3
	益富中	3	美里中	2	猿投台中	2	若園中	2

※ 浄水中学校区に帰国児童生徒が集中している。

### 2 豊田市立の小中学校に在籍している外国人児童生徒の概要(2025年5月1日現在)

#### (1) 外国人児童生徒数

	2024年度	2025年度	昨年比
小学校	916	949	33
中学校	435	463	28
合計	1351	1412	61

#### (2) 主な出身国と児童生徒数

ブラジル	656	フィリピン	216	中国	165	ペルー	78	ベトナム	109
ネパール	40	モンゴル	33	インドネシア	31	韓国	17	パキスタン	16
ポリビア	8	スリランカ	8	タイ	5	台湾	5	その他	25

#### (3) 主な在籍校と児童生徒数

小学校56校 (含：豊田特別支援学校小学部)	西保見	120	東保見	100	平井	62	大林	42
	若林東	37	朝日	42	東山	42	拳母	35
	小清水	40	浄水	26	美山	28	堤	23
中学校26校 (含：豊田特別支援学校中学部)	保見	138	高橋	39	崇化館	33	美里	29
	末野原	30	逢妻	26	高岡	24	朝日丘	23
	藤岡	15	豊南	11	竜神	10	浄水	14

※ 保見中学校区に集中が見られるが、全市的に多数の外国人児童生徒が在籍している。

## II 豊田市における帰国児童生徒の実態

(調査対象：(2022年4月1日～2025年5月1日までの帰国児童生徒))

### 1 帰国児童生徒数及び在留期間別人数<過去3年間に帰国>

学年	帰国児童生徒数			在留期間別人数							
	過去3年間に帰国 2022.4.1～2025.5.1			1年未満	1～2年	2～3年	3～4年	4～5年	5～6年	6～7年	7年以上
	男	女	合計								
小1	9	9	18	1	2	5	6	2	2		
小2	11	14	25		5	8	6	4	1		1
小3	17	13	30	2	5	6	12	2	3		
小4	19	18	37	1	4	11	14	5	2		
小5	24	20	44	3	6	16	9	4	4		2
小6	21	13	34	2	4	10	9	6		1	2
計	101	87	188	9	26	56	56	23	12	1	5
中1	20	19	39		4	13	14	3	5		
中2	21	10	31	1	2	7	11	3	5	2	
中3	11	12	23		1	10	8	3	1		
計	52	41	93	1	7	30	33	9	11	2	0
合計	153	128	281	10	33	86	89	32	23	3	5

### 2 帰国時の学年

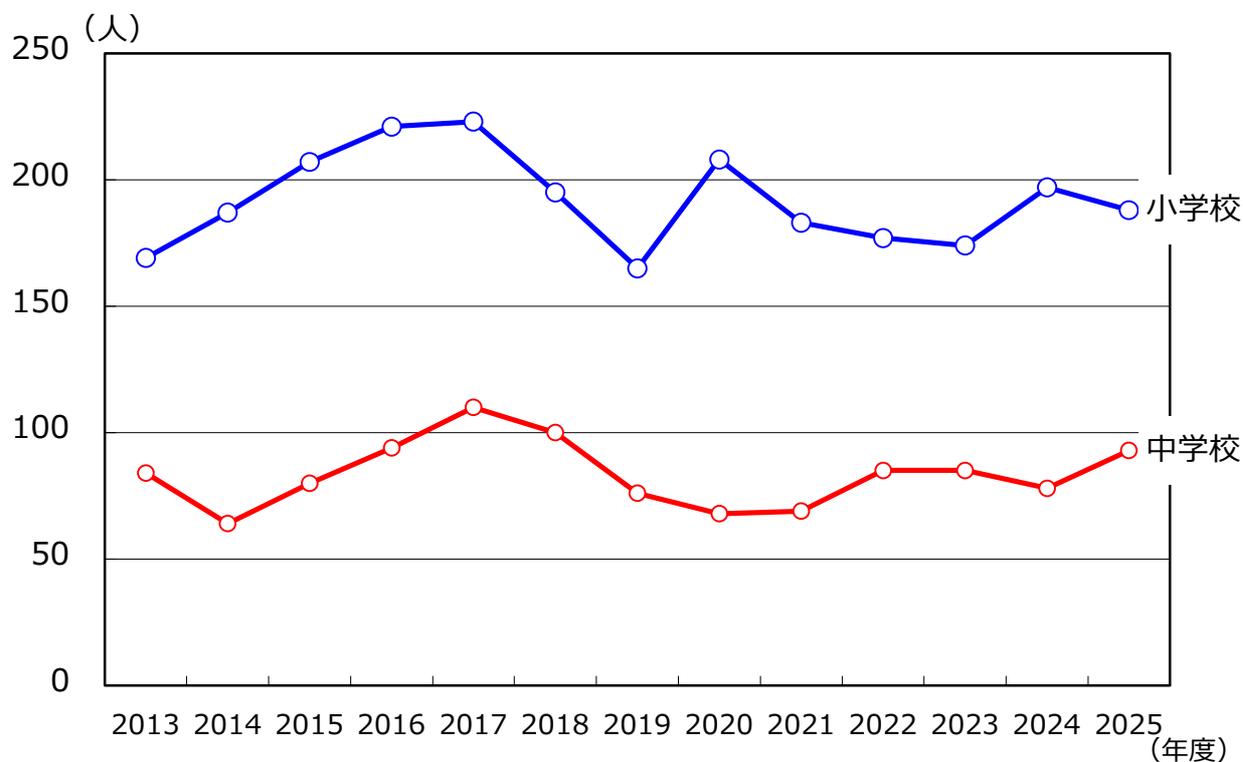
学齢	就学前	小学校						中学校			合計
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	
人数	36	34	38	43	26	38	43	15	6	2	281

### 3 在留国での就学状況(複数回答)

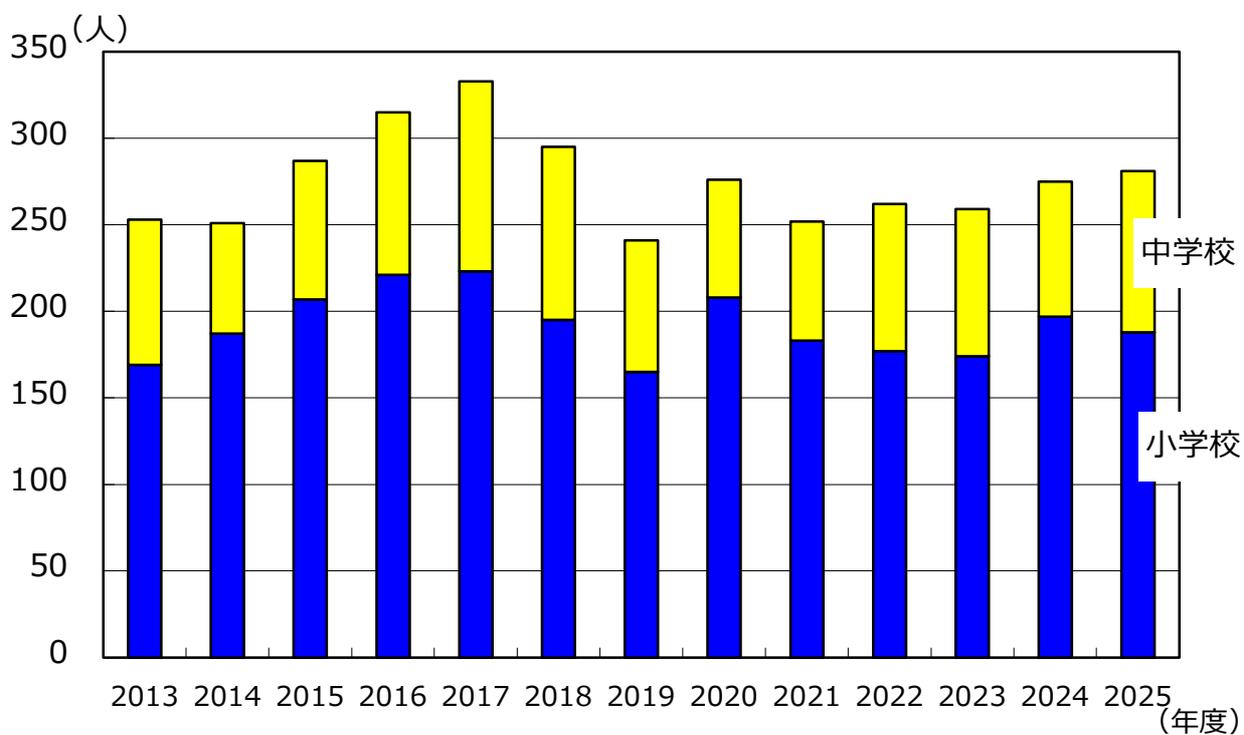
学校種別	日本人学校	現地校	国際学校	補習授業校	通信教育	就学前 教育施設	その他
小学校人数	74	84	16	70	6	34	6
中学校人数	54	36	5	36	3	0	1
合計	128	120	21	106	9	34	7

#### 4 帰国児童生徒の推移 <各年5月1日現在>

##### (1) 小中学校別帰国児童生徒の推移



##### (2) 帰国児童生徒数の合計と内訳



## 5 地域別・在留国別学年人数

### (1) アジア

No	在留国	1年	2年	3年	4年	5年	6年	小学校計	1年	2年	3年	中学校計	小中学校計
1	中 国	3	7	5	8	11	5	39	15	6	7	28	67
2	タ イ	1	2	4	6	7	6	26	1	3	2	6	32
3	インドネシア	1	1	1		1		4		3		3	7
4	イ ン ド							0				0	0
5	フィリピン				1	1		2				0	2
6	台 湾							0				0	0
7	シンガポール			1				1	1			1	2
8	マレーシア							0	1			1	1
9	韓 国							0				0	0
10	そ の 他			1		2		3				0	3
計		5	10	12	15	22	11	75	18	12	9	39	114

### (2) ヨーロッパ

No	在留国	1年	2年	3年	4年	5年	6年	小学校計	1年	2年	3年	中学校計	小中学校計
1	ベルギー	2	5	1	3	2	4	17	5	4	1	10	27
2	イギリス							0				0	0
3	ドイツ				1	1		2	1	1		2	4
4	チェコ							0				0	0
5	フランス							0				0	0
6	スウェーデン							0				0	0
7	ハンガリー							0				0	0
8	トルコ			1		1	1	3		1	1	2	5
9	そ の 他						1	1				0	1
計		2	5	2	4	4	6	23	6	6	2	14	37

### (3) 南北アメリカ

No	在留国	1年	2年	3年	4年	5年	6年	小学校計	1年	2年	3年	中学校計	小中学校計
1	アメリカ	9	10	12	17	15	16	79	11	11	10	32	111
2	カナダ	1		3		2		6	1	1	1	3	9
3	ブラジル							0				0	0
4	メキシコ			1		1	1	3	2	1	1	4	7
5	そ の 他							0	1			1	1
計		10	10	16	17	18	17	88	15	13	12	40	128

### (4) アフリカ

No	在留国	1年	2年	3年	4年	5年	6年	小学校計	1年	2年	3年	中学校計	小中学校計
1	南アフリカ共和国				1			1				0	1
2	そ の 他							0				0	0
計		0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1

### (5) オセアニア

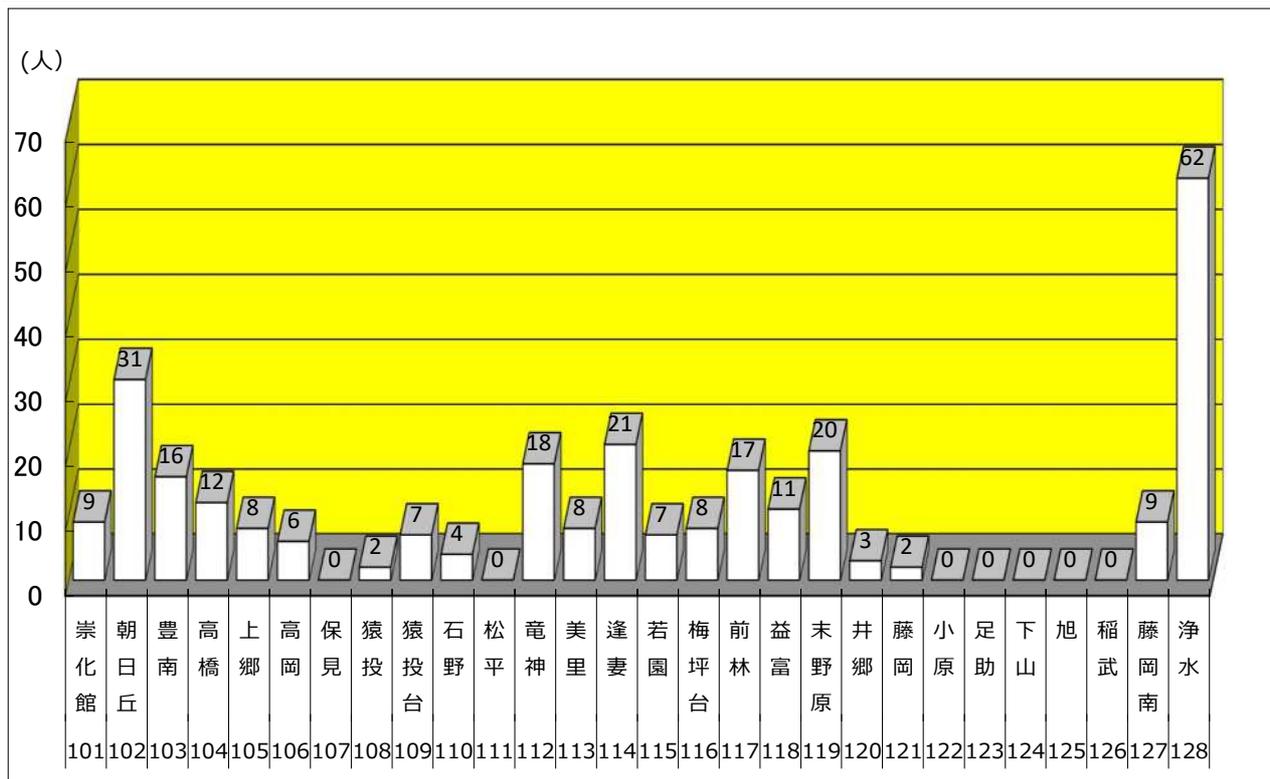
No	在留国	1年	2年	3年	4年	5年	6年	小学校計	1年	2年	3年	中学校計	小中学校計
1	オーストラリア							0				0	0
2	そ の 他	1						1				0	1
計		1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1

合 計		1年	2年	3年	4年	5年	6年	小学校計	1年	2年	3年	中学校計	小中学校合計
		18	25	30	37	44	34	188	39	31	23	93	281

## 6 中学校区別 帰国児童生徒数

学校番号	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114
中学校区	崇化館	朝日丘	豊南	高橋	上郷	高岡	保見	猿投	猿投台	石野	松平	竜神	美里	逢妻
児童生徒数	9	31	16	12	8	6	0	2	7	4	0	18	8	21

学校番号	115	116	117	118	119	120	121	122	123	124	125	126	127	128
中学校区	若園	梅坪台	前林	益富	未野原	井郷	藤岡	小原	足助	下山	旭	稲武	藤岡南	浄水
児童生徒数	7	8	17	11	20	3	2	0	0	0	0	0	9	62



## 7 帰国児童生徒に関するアンケート結果

(1) 学習内容などで困難を感じている教科・内容

【小学校】

帰国後1年目	人	帰国後2年目	人	帰国後3年目	人
・国語(漢字, 作文, 書写など)	17	・国語(漢字, 作文, 書写など)	10	・国語(漢字, 作文, 書写など)	4
・社会	1	・社会	2	・社会	0
・算数(文章題)	4	・算数(文章題)	0	・算数(文章題)	2
・理科	3	・理科	0	・理科	0
・音楽	0	・音楽	2	・音楽	0
・図工	0	・図工	1	・図工	0
・家庭	0	・家庭	0	・家庭	0
・体育	1	・体育	0	・体育	0
・外国語活動, 外国語	0	・外国語活動, 外国語	0	・外国語活動, 外国語	0
・総合的な学習, 生活科	0	・総合的な学習, 生活科	0	・総合的な学習, 生活科	0
・道徳	0	・道徳	0	・道徳	0
・全教科	1	・全教科	0	・全教科	0

【中学校】

帰国後1年目	人	帰国後2年目	人	帰国後3年目	人
・国語(漢字, 読解)	5	・国語(漢字, 読解)	5	・国語(漢字, 読解)	1
・社会(歴史, 地理)	7	・社会(歴史, 地理)	3	・社会(歴史, 地理)	2
・数学	4	・数学	3	・数学	0
・理科	8	・理科	1	・理科	1
・英語	0	・英語	0	・英語	1
・音楽	3	・音楽	0	・音楽	0
・美術	3	・美術	0	・美術	0
・保健体育	5	・保健体育	2	・保健体育	0
・技術・家庭科(裁縫)	4	・技術・家庭科(裁縫)	1	・技術・家庭科(裁縫)	0
・総合的な学習	2	・総合的な学習	0	・総合的な学習	0
・道徳	2	・道徳	0	・道徳	0
・全教科	0	・全教科	0	・全教科	0

(2) 学校への要望, 意見(指導上配慮してほしいこと)

【小学校】

他の子が当たり前身につけているルールなどの習慣が分からないので, その都度, 親も含めて教えてほしい。
日本語理解不足(語彙不足, 読み書き)の確認や修正をしてほしい。(日本語の学習支援)
正しい言葉遣いを指導してほしい。
帰国児童と知らない児童へ, 言動の失敗時の寛容さを広げてほしい。
海外で経験のない, 当番活動等のフォローをしてほしい。
帰国児童生徒の交流の場があると嬉しい。
海外では少人数だったが, 日本では大人数になり困っているので助けてほしい。

【中学校】

学校での暗黙のルールが分からないので教えてほしい。
未経験教科に対して配慮してほしい。(つまずきのある単元を教えてほしい)
テストにルビをふってほしい。
外国語の科目を増やしてほしい。
学校での必要物品の連絡がほしい。
外国の文化を否定することをやめてほしい。
給食の時間を長くしてほしい。

### (3) 生活適応上で困ったこと

<b>【小学校】</b>
食事でのマナーの違い
生活でのマナーの違い
交通ルールの違い
床で勉強する癖が残っている
集団行動ができない（全員が同じことをする違和感）
現地校とのカリキュラムの違い
文化の違い
学級児童数の違い
<b>【中学校】</b>
登下校（歩くのがつらい）
日本の気候に慣れない（暑すぎる）
日本の習慣（年賀状や盆踊り等）を知らない
読解力不足
友達との交流が少なくなった
目上の人に対しての言葉遣い

### (4) 習得した言語等を維持するための工夫

<b>【小学校】</b>
英会話教室に通う
オンライン英会話
家庭での会話を英語で行う
英語で映画を観る
英語イベントへの参加
外国語維持教室
英語の本を読む
テレビ、アプリ
<b>【中学校】</b>
英会話教室に通う
オンライン英会話
外国語保持教室
在留国の友人と連絡をとりあう
英検対策
外国の映画を観る

### (5) 海外滞在体験が本人に与えたと思われる事柄

<b>【小学校】 プラス的傾向</b>
多様性を認める（受け入れる）意識をもてた。
多言語の習得ができた。
幅広く友達ができた。
自己肯定感が高くなった。
何とかするという適応力が高くなった。
コミュニケーション力が強くなった。（社交的になった）
世界及び日本の文化に対して興味をもつようになった。
様々なことに偏見がなくなった。
考え方が柔軟になった。（前向きになった）
外国に対する敷居が低くなった。（色々な国や人に興味をもてた）
積極的になった。
成功体験を多くつめた。
日本のよさを実感できた。
家族の大切さに気付けた。
<b>【小学校】 マイナス的傾向</b>
日本語の理解が低くなった。（国語が苦手）
日本独特の行事や童謡に触れる機会が少ない。
日本と学校のルールの違いへの戸惑い。
海外での環境に適応できるまでの子どもの負担があった。
運動能力の低下があった。（スポーツ経験が少なかった）
日本の仲のよい友達との別れがあった。
海外は常に親と行動で、一人での行動が苦手になった。
順番を守れなくなった。
英語に苦手意識ができた。
治安面が不安だった。
海外の自由な校風に慣れ、日本の校風に戻れない。
習い事の選択肢が少なかった。
環境（空気等）が悪かった。

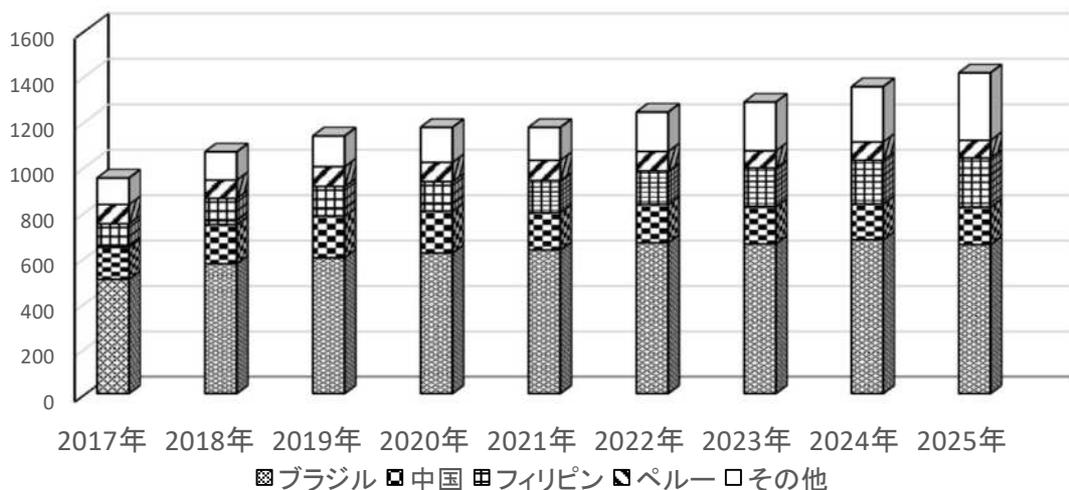
<b>【中学校】 プラス的傾向</b>
多様性を受け入れられるようになった。
視野が広がった。
異文化に触れられた。（外国の文化に関心をもった）
交友関係が広がった。
積極的になった。（物怖じしなくなった）
英語力が向上した。（英語が好きになった）
自分に自信をもてた。
日本のよさを再認識できた。
新しい環境への適応力が向上した。
コミュニケーション能力が向上した。（言葉が通じなくても仲良く）
自分の意見を言えるようになった。
旅行がたくさんできた。
自ら学ぶようになった。
安全に対する意識が向上した。
<b>【中学校】 マイナス的傾向</b>
日本の学習に遅れる。
帰国後の友達づくりが大変だった。
コロナ禍で家庭学習に苦労した。
言葉の壁によるストレスがあった。
日本語の語彙が少ない。（日本語能力の低下）
日本の気候に慣れない。
技能教科の内容が違う。
必要性の低い言語が必修科目で困った。
自分の容姿に自信がなくなった。
祖父母との時間が減少した。
親に甘えるようになった。
嫌なことはしなくてもいいという考え方になった。
テストを嫌がるようになった。

### Ⅲ 豊田市における外国人児童生徒の実態

#### 1 学年別外国人児童生徒数

校種	小学校						小学 合計	中学校			中学 合計	総合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年		1年	2年	3年		
人数	162	156	168	155	140	168	949	160	153	150	463	1412

#### 2 外国人児童生徒数の変遷（各年5月1日現在）



	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
ブラジル	503	572	598	619	632	664	659	677	656
中国	142	172	184	185	165	169	164	158	165
フィリピン	103	116	130	129	141	147	170	192	216
ペルー	84	80	87	85	89	86	76	81	78
その他	117	124	135	154	145	173	214	243	297
合計	949	1064	1134	1172	1172	1239	1283	1351	1412

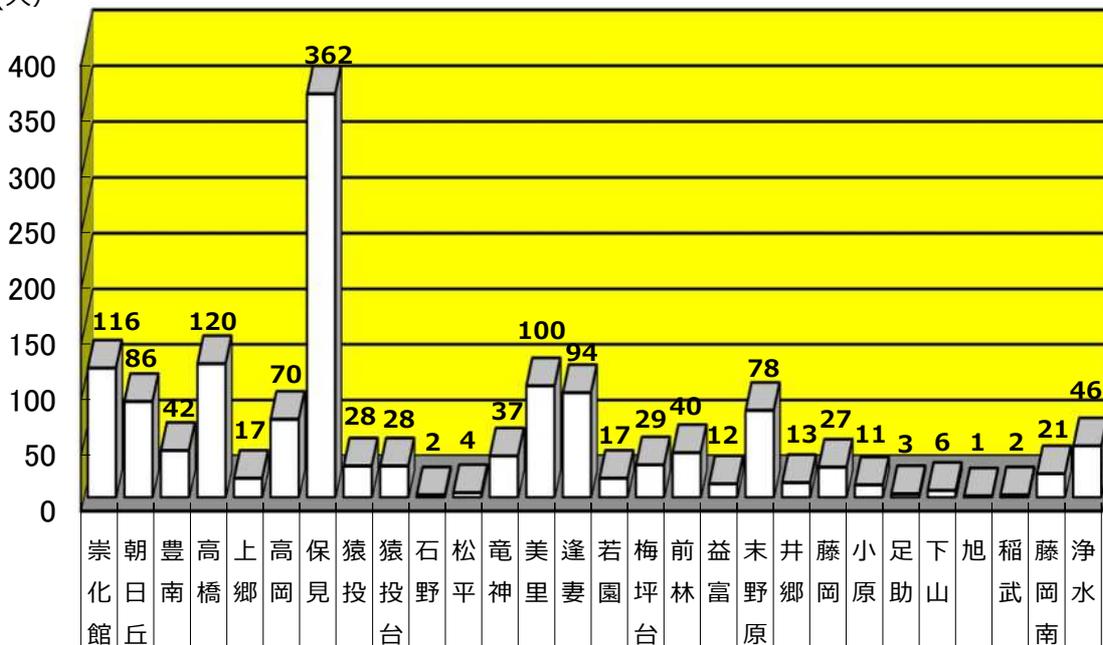
#### 3 外国人生徒の中学校卒業後の進路

	全日制			定時制	通信制	高専	特支	専修学校	各種学校	職能開発	就職	家事手伝い	帰国	その他	合計
	国立	公立	私立												
人数	0	94	15	3	0	0	3	11	5	0	1	8	1	0	141

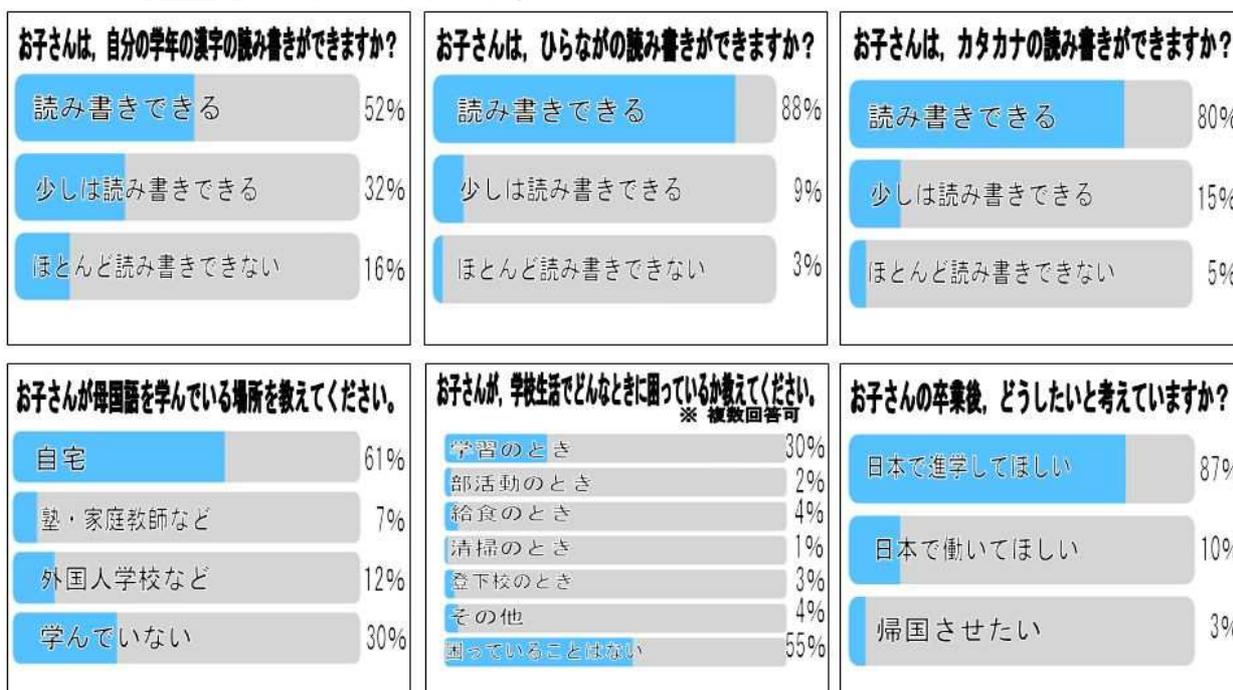
#### 4 中学校区別外国人児童生徒の在籍状況

学校番号	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120	121	122	123	124	125	126	127	128
中学校区	崇化館	朝日丘	豊南	高橋	上郷	高岡	保見	猿投	猿投台	石野	松平	竜神	美里	逢妻	若園	梅坪台	前林	益富	末野原	井郷	藤岡	小原	足助	下山	旭	稲武	藤岡南	浄水
児童生徒数	116	86	42	120	17	70	362	28	28	2	4	37	100	94	17	29	40	12	78	13	27	11	3	6	1	2	21	46

(人)



#### 5 外国人児童生徒に関するアンケート結果



<b>【小学校】 家に帰ってからの生活で困っていること</b>
友達と遊びながら宿題をしている。勉強や宿題やらない。
勉強するよりもゲームをする時間のほうが長いこと。
宿題の内容がわからない。宿題が多い。
親の日本語力が不十分なため、日本語や漢字の指導に困っている。
学校から帰ってから、親との会話ができない。
日本語が全く通じないので、友達と意思の疎通が難しい。
発達障がいがあるため、困難を抱えている。
<b>【小学校】 学校への要望</b>
勉強している時、分かる（やさしい）日本語で話してほしい。
話しているとき言葉の意味を説明してほしい。
両親は外国人のため、日本語、歴史、日本文化の科目を教えることができないので、学校で分かるようにしてほしい。
日本語の補習授業を設けてほしい。
日本語と外国語両方を話せる支援員をつけてほしい。
もっと日本語、漢字、算数を教えてほしい。より高い成績がとれるように準備させてほしい。
日本の文化を知ってほしい。
勉強をやるように声をかけてほしい。
得意なことを伸ばしてほしい。
他の子ども達が、特別な支援が必要な子ども（外国人）たちに共感を抱いけるようにしてほしい。
言語が聞き取れず多くの問題が生じている。より多くの配慮と理解を示し、学校生活に溶け込めるにほしい。
子どもに問題ごとがあったときは、保護者に連絡してほしい。
発達障がいがあることを理解してほしい。
<b>【小学校】 日本の学校に入ってよかったこと</b>
友達ができ、話したり遊んだりしているいろんなことを学べている。
日本語を話せるようになってよかった。
日本語でコミュニケーションをとれるようになり、日本での安全な生活を築くことにも役立った。
子どもは学校が大好きで、子どもの成長にとっても満足している。
先生方が優しく、外国人でも日本人の児童と同じように接してくれる。
先生方は、勉強を教えてくれ、子どものことを大事にみてる。
先生が優しく褒めて励ましてくれることで、子どもは自信がもっている。
日本の教育システム（規律、効率、全人教育、バランスのとれた食事、熱心な先生、安心できる環境）に満足している。
体育、図工の授業があること。様々なクラブ活動があること。
学校生活での、ボランティア活動や集団活動を通して自立性の向上ができた。
学校行事で、いろいろな体験や活動をしてくれることはよいと思う。
学校で規律や規則を守り、互いに尊重し合うことを学べた。
高い意識と責任感が身につき、正直で礼儀正しく、誰に対しても親切となった。
通学団で登下校することがよい。交通安全指導よく教えてくれてよかった。
日本の文化を知ることで、日本の環境に適応することができた。
障がいのある子どもにも、先生はやさしい。子どもにとって安心。

<b>【中学校】 家に帰ってからの生活で困っていること</b>
勉強をやる気がない。ゲームやスマートフォン、タブレットを使いたい気持ち大きい。
積極的ではない。親が言わないと何もしない。
あまり学校に行けていない。
進路のことで不安がある。
<b>【中学校】 学校への要望</b>
外国人の子どもに、もっと分かりやすい国語と社会の授業をお願いしたい。
数学は難しいので、教えてほしい。
学校が出す文書を、翻訳してほしい。特に、提出書類は翻訳版がほしい。
漢字にふりがなをつけてほしい。
通訳がほしい。
日本語の授業の時間がもっとほしい。
夏休みの課題が多い。
<b>【中学校】 日本の学校に入ってよかったこと</b>
日本語を学び、分かるようになった。
漢字書けるようになったし、読めるようになったこと。
2つの言語が使えるようになったことです。
日本の友達ができたこと。日本での生活に慣れてきたこと。
日本人とコミュニケーションが取れるようになった。
日本の学校は、非常に組織的で素晴らしい。
日本の教育方法と学校給食の質、先生方の熱心さ。
整った環境で学べる、安心して学習に取り組める。また、友情や協力の精神を育むイベントがたくさんある。
礼儀正しさや、約束を守ることなど、多くのことを学べた。
子どもが、毎日楽しく学校へ通っていること。
先生たちが、みんな優しく、いつも助けてくれている。
国際教室で、新しことを勉強したり日本についていろいろなことを学んだりすることができた。

## IV 令和7年度 国際理解教育に関する実態調査（結果）

### 設問Ⅰ 本年度、実施した(実施予定の)国際理解教育に関する活動内容

(複数回答可)

		小学校	中学校
1	外国人を学校に招待し、ふれあい交流や異文化体験する。	6	3
2	教科・特別活動・学級活動等で、外国について学習する。	75	29
3	外国人講師を招き、児童生徒や保護者に講演を行う。	4	1
4	外国人と文通や作品、写真、ビデオなどの交換をする。	3	0
5	外国人とスポーツ交流する。	2	0
6	在校児童生徒以外の外国人児童生徒が、一緒に学習したり、家庭に滞在したりして交流する。	3	1
7	在校外国人児童生徒が食文化や伝統、生活の違いについて紹介したり、スポーツ交流したりする。	4	4
8	在校帰国児童生徒が、食文化や伝統、生活の違いについて紹介する。	2	5
9	自校の外国人児童生徒の保護者が母国の食文化や生活習慣等を紹介し、伝統や文化の違いを学習する。	0	0

<その他>

**小学校**

- ・ALT 専用の校内掲示板の設置。(季節に合う出身国の情報や食べ物の紹介や、児童や教員がコメントを書いたり好きな食べ物にシールを貼ったりする)
- ・ALT の出身国の文化を学ぶ。(ゲームや ALT 作成スライド等)
- ・日本語教室で学ぶ児童が集まり、給食、ゲーム等を楽しむ交流会の実施。
- ・2年生の町探検で、オイスカという施設で外国人と一緒に交流する。
- ・6年生が修学旅行で、外国人に英語で質問をするなどコミュニケーション活動の実施。
- ・生活委員会によるワールドあいさつ運動を行う。(日替わりでいろいろな国の言葉であいさつをする)
- ・地域講師により、ヨーロッパの食文化を学び、調理実習を実施。
- ・一時帰国児童による、アメリカの食文化や生活についての紹介。

**中学校**

- ・英語科の授業や昼の放送で、ALT から自分の国や他国の文化などを紹介。
- ・ALT 専用の掲示板を設置。そこに季節ごと出身国など外国の生活や英語を活用した情報を掲示。
- ・海外派遣代表生徒の報告会。
- ・保見団地で外国人の生活支援をしている方をお招きし、国際交流についての講演を実施。
- ・ユニセフ教室を実施。
- ・海外日本人学校に勤務経験のある教諭の講演を聞き、外国との文化の違いについて学ぶ。
- ・TIA の方を招き、やさしい日本語について学ぶ。
- ・アメリカ、バンド市の中学生と手紙のやり取り。
- ・在英日本大使館のスタッフとオンライン交流。

### 設問Ⅱ 国際理解教育に関する活動の実施形態

(複数回答可)

		小学校	中学校
1	全校児童生徒が実施	9	10
2	全校児童を低学年・高学年に分けて実施	0	
3	全校児童を低・中・高学年に分けて実施	5	
4	学年別に実施	33	14
5	学級別に実施	40	20

<その他>

**小学校**

- ・委員会や総合的な学習の時間で実施
- ・外国語科の授業で実施
- ・日本語指導教室に通う児童で実施

**中学校**

- ・文化祭で実施
- ・希望する生徒で実施

### 設問Ⅲ,Ⅳ 外国の方との交流,外部機関との連携

学校名	実施日	国名	内 容	★外部機関
小清水小	9月22日~23日 10月21日	インド フィリピン インドネシア	修学旅行でインタビューをする。 特別支援学級でオイスカ研修生と活動する。①国旗と国旗の意味②有名なものダンス・ゲーム	★オイスカ
美山小	9月24日	カナダ	地域の外国人労働者に学区の魅力を伝える。	★トヨタ自動車元町工場
矢並小	10月16日~17日		修学旅行時に外国の方にあいさつ等のインタビューをする。	
堤小	9月25日~26日		修学旅行時に外国の方に英語でインタビューをする。	
若園小	1月19日		国際委員会が外国の文化や食事などについて調べたことをクイズ形式で発表する。	
大林小	1回目 6月13日 2回目 7月8日 3回目 7月15日	アイルランド インド タイ	各国講師を依頼し自国の文化紹介を聞き,様々な国の文化や価値観に触れ,共生していくために,豊田に住む外国人のためにできることを考える。	★T I A
伊保小	5月7日 5月29日	フィリピン	ALTが自国の文化について紹介する。 ブラジル,フィリピン等 外国人児童が多く在籍する学校との交流活動をする。	
上鷹見小	12月8日	インド インドネシア フィリピン	2年生が町探検で海外から来ている方とゲームや遊びや母国のことを楽しみながら,交流する。	★オイスカ
豊松小	11月12日	ブラジル	ALTから文化についてゲームを交えて学ぶ。	
朝日小	9月12日	アメリカ	文化や食文化,特色,国民性について学び,その国知り大切にしていこうという気持ちを育てる。	★多様性社会共創課
四郷小	4月18日 6月26日~27日	フィリピン	A L Tの出身国の文化について聞く。 修学旅行で外国の方にインタビューをする。	
若林西小	12月8日	フィリピン	講師を依頼し,現地の米の紹介や米を使った料理を行う。	★T I A
五ヶ丘東小	1回目 4月 2回目 6月23日 ~7月2日	フィリピン カナダ	A L Tから学校生活や食べ物,文化の違いを学ぶ。 体験入学生から現地と日本の学校生活や食べ物,文化の違いを学ぶ。	
佐切小	12月11日		修学旅行にて,飼育活動で作った堆肥を販売する会社(学校)のパンフレットを作成し,外国の方に広報活動をする。	
則定小	12月12日	カナダ,ウクライナ,ロシア,ドイツ,イギリス,アメリカ,オーストラリア	外国の方に地元の偉人鈴木正三について紹介する。	
大沼小	1回目 10月 2回目 1月	アメリカ, フィリピン 中国,フランス, アメリカ	ALTから国の文化について学ぶ。 国の特徴,日本との文化の違い,産業の様子などを学ぶ。	★T I A
巴ヶ丘小	通年	アメリカ	ALTからアメリカと日本の文化の違いについて学ぶ。	
稲武小	1回目 4月24日 2回目 7月17日	アメリカ アメリカ	現地にいる昨年度のALTとのオンラインで交流する。	

学校名	実施日	国名	内容 ★外部機関
朝日丘中	7月4日	メキシコ, フィリピン, アメリカ, ジャマイカ	ALT が複数人来校し, 生徒がおすすめの地元のご飯を紹介する。
高橋中	4月14日~18日 10月15日	アメリカ	ALT による自己紹介と母国紹介をする。 海外派遣参加生徒による報告会を行い, 全校生徒に向けた発表をする。
保見中	1回目 6月18日 2回目 9月17日	ブラジル ブラジル	マイクロアグレッション等について聞く。 講師の方の人生から, キャリアに関わる話をきく。 ★T I A
竜神中	10月8日 2月中旬	イギリス イギリス	ダービシャとオンラインで会話をする。 海外留学生を受け入れ学校生活を共にし, 交流する。 ★多様性社会共創課
梅坪台中	4月28, 30日 10月16日	フィリピン アメリカ	ALT による自己紹介で他国文化について学ぶ。 複数の ALT を招いた授業をする。
藤岡中	1回目 5月中旬 2回目 7月7日  3回目 12月中旬	アメリカ	アメリカバンド市の中学生と手紙のやり取りをする。 加茂丘高校に來ているアメリカバンド市の高校生と英語の授業中に会話活動をする。 5月中旬と同様に手紙のやり取りをする。 ★多様性社会共創課
小原中	1回目 6月6日 2回目 10月6日	フィリピン	ALT にご当地グルメを紹介していただく。 ALT に生活習慣や文化の違いを学ぶ。
足助中	1回目 4月25日 2回目 6月26日 3回目 11月10日	フィリピン	ALT からフィリピンの食文化について学ぶ。 ALT からフィリピンの気候について学ぶ。 ALT から季節の行事について学ぶ。
藤岡南中	7月15日	カナダ	3年英語科の授業のゲストティーチャーとして, 現地に住む方から文化や生活習慣について学ぶ。

★オイスカ 公益財団法人オイスカ 中部日本研修センター  
★T I A 豊田市国際交流協会

## 2 帰国出国サポート委員会活動報告

### I 帰国・出国児童生徒保護者懇談会

- 1 はじめに
- 2 体験談を聞こう
- 3 帰国・出国生徒対象の情報を聞こう
- 4 情報交換会
- 5 小学生交流会
- 6 まとめ

### II 相談窓口の開設



# I 帰国・出国児童生徒保護者懇談会

## 1 はじめに

豊田市在住の帰国・出国児童生徒保護者が交流を深め、海外での体験を共有するとともに、進路や学校生活への適応等について情報交換することを目的に、8月2日（土）に豊田市国際交流協会（T I A）において懇談会を開催した。質問については、事前に集約したものを講師の方へ送付し、講話や懇談の中で回答していただいた。ブースに分かれての懇談では、保護者の方より、現地での学校生活・勉強方法・帰国後の進路、また出国先での居住区決定など様々な角度から幅広い質問が挙がり、中身の濃い活気ある懇談会となった。

《滞在国別参加児童生徒・保護者数（人）》

滞在国	児童生徒数	保護者数
アメリカ	8	11
中国	2	2
タイ	2	1
ドイツ	1	1
ベルギー	1	1
アルゼンチン	0	1
スペイン	0	1
計	14	18

本懇談会は、平成27年度より帰国者だけでなく、出国予定者にも対象を広げ、帰国者と出国予定者相互の情報交換や交流を大切にしている。今年度は児童生徒14名、保護者18名の合計32名の参加となった。



<参加者自己紹介>



<全体説明会>



<ブースでの懇談会>

## 2 体験談を聞こう

### (1) 中学1年生徒の体験談

私は、1年生から5年生の約5年間をアメリカで過ごしました。私が住んでいたのは、ミシガン州です。アメリカに着いてすぐは英語も分からずとても不安でした。まず環境に慣れるために、家族と近所を散歩したり、公園で遊んだり、近くのスーパーへ買い物に行ってどんな食べ物があるのか、どのお菓子がおいしいのかを試したりしました。

その年の9月には、現地校と土曜日の補習授業校に入学しました。私が通っていた現地校では、日本人は全校で5人くらいでした。ESLという英語が母語ではない生徒向けに英語の授業があったのですが、その先生の中に日本語が分かる先生はいませんでした。アメリカでの授業はカーペットに座って受け、休み時間は一度しかなく各自でトイレ休憩に行くだけでし



た。給食ではピザやホットドッグと茹でたブロッコリーなどで、日本の給食に比べあまり栄養が考えられていないことに驚きました。また、私は入学してから先生やクラスメイトとずっと話せずについて、給食後の休み時間はいつも一人で過ごしていました。

数週間経った頃、一人のアメリカ人の女の子が私に声をかけてくれ、それから一緒に遊ぶようになりました。私はその子と話せるようになりたかったので、英語教室に通い、半年後には少しずつ言っていることが分かるようになりました。それから学校で友達と話してみると、みんなは私の下手な英語を馬鹿にすることなく理解しようとしてくれました。そのときから、アメリカでの生活がだんだんと楽しく感じられるようになりました。

アメリカでは季節の行事もたくさんあり、バレンタインにはクラスでゲームをしたり、お菓子やメッセージカードの交換をしたりします。ハロウィンには学校に仮装していき、お菓子をたくさんもらいます。近所のおうちでもハロウィンが近くなると、家をカボチャやおぼけなどで飾り付けをして、子どもが回ってくるとチョコレートやグミなどたくさんのお菓子を配ってくれます。学校でもパジャマデーはパジャマで学校に行ったり、ツインデーは友達とおそろいの服を着て行ったり、楽しいイベントがたくさんありました。

毎週土曜の補習授業校では、日本と同じ教科書を使い、日本の子と同じような授業をします。そこでは全て日本語で話すので、通い始めてすぐ数人の友達ができました。補習授業校では毎週30ページほどの宿題が出され、英語の勉強をしながら宿題を終わらせるのはとても大変でした。補習授業校での勉強は難しかったけれど、算数は現地校より内容が進んでいたおかげで、現地校では英語が分からなくてもなんとなく理解でき、授業についていくことができました。

5年間のアメリカ生活を振り返ると、コロナで大変な時期もありましたが、野球の大谷翔平選手やバスケの八村塁選手を見に行ったり、国立公園や有名な観光地へ旅行に行ったり、たくさんの素晴らしい景色や動物を見ることができました。これは日本では体験できない貴重な経験でした。その中でも私の一番の宝物は、国境を越えたたくさんの友達ができただけです。アメリカでは、子どもが一人で外出できないので、母親にお願いして何度もアメリカ人の友達の家に連れて行ってもらったり、イラク人の友達の家に何度も泊まりに行って朝までしゃべったりしました。メキシコ人のおうちでは、メキシコ料理を食べたり、カードゲームをしたりしました。私のアメリカ生活最終日には、クラスメイトが私のために涙を流してくれたことが、今でも忘れられない思い出です。その友達とは、日本に帰国後もメッセージのやり取りをしています。

最後に、私がアメリカでの生活から学んだことは、アメリカに住んでいる人は困っている人を見かけたら積極的に声をかけ、助けてくれることです。それは、アメリカ人の友達が、英語を話せなかった私にしてくれたことです。みなさんも海外に行くこと、生活することを不安に思うかもしれませんが、その不安も最後には大きな喜びと楽しみ、そして忘れられない思い出に変わっていくと思います。海外で生活するという貴重なチャンスを逃さず、色々なことにチャレンジして行ってほしいと思います。

## (2) 保護者の体験談

保護者 津幡 寛子 様

私たち家族は、2018年1月から2021年12月までの4年間、アメリカ南部のテキサス州ダラスの近郊にあるプレイノという都市に住んでいました。渡米時、娘は4歳でこども園の年少でした。比較的安全性が高いといわれている都市だったことから、住む地区や場所は指定されていなかったため、住宅を探すにあたっては、娘の小学校の学区をどこにしたいかとその学校への通いやすさを最優先しました。アメリカと日本との学年の始まる月が異なることから、娘は学年が半年繰り上がり、渡米した年の8月にアメリカでは小学校のキンダー（1年生の一つ下の学年）に入学しました。小学校の学区をどこにするかを決めるにあたっては、外国人比率や人種構成、全体的な評価などを参考にしました。アメリカでは、同じ都市でも1ブロック住む場所が異なるだけで、治安や人種、民族、教育水準が大きく異なることがあるので、事前によく調べることをお勧めします。また、自分自身の経験ではありませんが、小学校区の評価はとてよくて中学・高校学区の評価がよくないという例もあったので、滞在中に進学を予定されている場合は、その先の中学校、高校の評価についても気にするとよいと思います。



現地の学校の申し込みは、通う学校と学区を確認して学区のウェブサイトで、自分で申し込みました。その後、英語が家庭の第一言語ではない子どもたちを対象とした英語レベルチェックの試験と面談があり、入学前の夏休み期間にその英語レベルに基づくサマースクールに参加しました。このサマースクールでは英語を母語としない様々な国の子どもたちが参加していたので、娘はそこで友達ができ、小学校入学後の学校生活もスムーズにスタートすることができたように思います。英語の習得については、最初はアルファベットが読める程度のレベルからでしたが、1年経つ頃には担任の先生から、授業中は問題なさそうだとされるほどに成長しました。学校生活で分からないことはあったようですが、「困ったら誰かに聞く」ということができるようになったことでそれほど困ることもなく過ごせていたようです。なお、娘の学校ではキンダーの学年を対象としたESL（English as a Second Language）がなかったため、補助の先生が授業の遂行をフォローする中で、英語が分からない子どもたちも見ていました。学年が進むにつれ、読める本で測る語学力の判定は現地のレベルに追いついていき、娘は結局ESLを受けていません。

保護者側としては、現地校の制度や習慣など、日本とは違うことについて不明点や理解できないことが多くありましたが、担任の先生や事務の担当者にメールで質問すると丁寧に教えてくださったので、大変助かりました。また、現地校では保護者がボランティア参加できる機会も多くありました。私はブックフェアのボランティアに何度か参加しましたが、参加することで学校の情報を得ることができ、他の保護者やPTAの方と顔なじみになることができたので、とてもよい機会だったと思います。

現地校入学後は、月曜日から金曜日までは現地校、土曜日の午前中は日本語補習授業校に通っていました。日本語補習授業校は年間44日程度しかないと

め、文字・漢字の書き取り、日記などの宿題がとて多く、子どもは（フォローする親も）とて大変でした。ただ、このおかげで帰国後に困ることなく日本式の授業進行や授業内容についていくことができたと思っています。また、親にとてても日本語で様々な情報交換ができる貴重な場でした。

娘の英語習得については現地校入学というタイミングのよさもあり、ありがたいことにそれほど悩みはなかったのですが、アメリカでの生活が2年半経過した頃から日本語で話すときに吃音のような言葉の繰り返しが見られるようになりました。補習授業校の担任の先生から指摘されたのですが、低学年の子に時折見られる症状ということでした。英語に触れる時間が長くなってきているので頭の中で英語から日本語に直して考えていると、日本語にする前にたくさん考えないといけないためストレスがかかり、スムーズに言葉が出てこなくなったのではないかとのことでした。帰国後のことを心配していたのですが、日本の学校に通い始めて半年ほどで気付かない程度になったので、日本語の環境に馴染めたのだと安心しました。

帰国後の英語維持についてですが、娘は小学校2年生の1月に帰国し、一般的には英語力の維持ができるかできないか、際どいラインだと言われる年齢なので、なるべく英語に触れる機会を失わないように努めました。土曜日の外国語保持教室に通うこと、T I Aの帰国子女Englishグループに参加することで英語に触れる機会を作りました。また高学年になってからは、英検にチャレンジすることで勉強としての英語の学習も始めました。娘は「またアメリカへ行きたい」と言っているので、本人が英語や海外に興味をもち続けていけるよう、親としてフォローしていこうと思います。

最後に、私たち家族にとてアメリカでの生活はとて充実したものとなりました。環境に慣れることは必要でしたが、家族と過ごす時間が増えたこと、家族そろってたくさんの体験ができたことは、海外生活ならではの貴重な時間だったと思います。

### 3 帰国・出国児童生徒対象の情報を聞こう

(1) 「これからお子さんととて外国で生活するみなさんへ

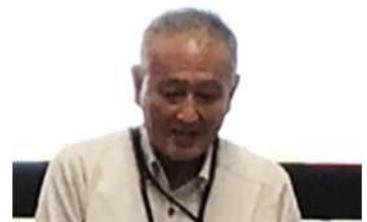
～出国から帰国するまでに気を付けること～

(株) トヨタツーリストインターナショナル 海外営業企画部

海外子女教育相談カウンセラー 山崎 秀哲 様

#### 1 日本人学校・補習授業校の就学状況

- ・日本人学校…全体の約4割の人が通っている。
- ・補習授業校…全体の約6割の人が通っている。
- ・アジアでは、約9割が日本人学校に通っている。
- ・北米では、ほぼ現地校と補習授業校に通っている。



#### 2 海外子女教育の特徴

(1) 就学形態の推移

- ・日本人学校・補習授業校に通っている人数は横ばい。
- ・英語圏の現地校・インター校に就学する児童生徒は増えている。

(2) 就学年齢・就学期間

- ・低年齢化が進んでいる。
- ・長期化の傾向がある。

(3) 多様化

- ・特別支援教育が必要な児童生徒が日本人学校・補習授業校で増えている。

### 3 出国時の留意点

(1) 現地の学校選び

- ・日本人学校は国内と同等な教育を行い，文科省からの派遣教員が指導。
- ・私立在外教育施設も日本人学校同等。ただし，高等部のみの学校もある。
- ・現地の学校（公立・私立）は，その国の言語での学習となる。
- ・インターナショナル校は，ほとんどの授業が英語で行われる。  
※日本人学校以外に通う場合，日本の勉強との両立が必要。
- ・アメリカ赴任の例
  - ① 学校を決めてから，物件（家）を見つける。
  - ② ESLやチューター制度で英語のサポート。
  - ③ オンラインでの塾や家庭教師で日本の学習を補充。

(2) 外国語の習得

- ・2～4歳 残らない。 ・4～6歳 ほとんど忘れる。
- ・6～8歳 多少は残る。
- ・9～13歳 読み書き可，英検準1級を取得する人もいる。
- ・14歳～ 習得までに大変苦勞するが習得した後は帰国生受験に生かすことができる。

(3) 赴任中のスケジュール

①アメリカ在留で高校受験を控えた事例

- ・チューターから指導を受け，補習授業校で日本の学習に取り組む。
- ・一時帰国の際は，受験校を訪問したり，塾の夏期講習を受講したりする。
- ・模試などにも挑戦して受験に備える。
- ・公立高校は愛知県教育委員会高等学校教育課HP，私立高校は愛知県私学協会HPで確認する。

②小学生の場合

- ・音読や漢字ドリル，計算ドリルなどで学力の維持は必要。
- ・一時帰国の際に地元の小学校への体験入学をするとよい。

### 4 在留中の留意点

(1) 日本人学校と現地校・インター校の学習

- ・日本人学校  
月～金＝日本と同等の学習，宿題 土・日＝休日
- ・現地校・インター校  
月～金＝現地の学校の学習，宿題  
土＝補習授業校の学習（国語・算数中心）  
日＝午前中を使って社会・理科の学習を進める。

※教科書をしっかり読み込むとよい。

## (2) 幼児教育の留意点

- ・小学3年生以上になると母語が形成される。幼児期に1日の生活の中で日本語に触れる時間、外国語に触れる時間を作り、きちんと使い分けることが必要。
- ・幼稚園に通っているときは外国語、家庭に戻ったら日本語というように使い分けると、それぞれが理解できるようになる。

## 5 帰国時の留意点

### (1) 帰国後の子どものケア

- ・子どものことを理解してもらえるように現地での生活の様子や学習内容、日本の学校生活習慣に不慣れなことを前提に支援や配慮してほしいことなどをA4用紙1枚程度にまとめ、学校に提出するとよい。

### (2) 高校受験にかかわる帰国のタイミングと高校入学までの選択肢(進路)

- ・中学3年を卒業あるいは9年生を修了していれば受験の資格がある。
- ・日本の高校を受験するには、①現地校に在籍したまま受験 ②地元の中学校に編入学して受験 ③高校1年になった段階で編入学の3パターンがある。

※中学3年の4月から日本の学校に通えるのが一番よい。

※高校編入学試験を受験する場合、公立や私立で時期や内容が異なるため確認が必要。

### (3) 帰国後の英語力(現地語)の保持

- ・海外子女教育振興財団や塾等が行っている英会話教室などを活用する。
- ・英語に力を入れている高校や帰国生徒が多い高校に進学する。
- ・身に付いた英語力を証明するために英検の準1級を目指して挑戦。

## 6 海外赴任の意義

- ・家族の在り方を見直すきっかけ。(帯同赴任 or 単身赴任)
- ・子育てに対して再認識。
- ・国際感覚の育成。(臆せず関わる・外国語の習得)

## (2) 「帰国後、公立高校へ進学するには」

愛知県立豊田西高等学校 教頭 嶋田 好克 様

### 1 帰国後、公立高校に入るには

- ・2月上旬にある推薦入試または特色入試を受検。
- ・2月下旬にある一般入試または海外帰国生徒選抜を受検。
- ・随時受検できる編入学試験を受検。

### 2 海外帰国生徒選抜

- (1) 実施時期は、2月下旬。
- (2) 試験内容は、学力検査3科目(国・数・英)と面接。

※同日実施の一般選抜にも第1志望として出願するので実際には社・理を含めた5科目を受検。

- (3) 出願資格は、「継続して2年以上海外在住かつ帰国後2年以内」であること。



- (4) 三河地区実施校（公立）は，豊田西・岡崎西・豊橋東の3校。
- (5) 出願手続きは，①愛知県教育委員会に相談 ②志願先の高等学校へ相談 ③必要書類を揃えて出願。
- (6) 海外日本人学校は，推薦選抜に出願可能（日本人学校長から志願先高等学校長へ事前連絡が必要）。海外現地校は推薦選抜への出願不可。  
※海外現地校であっても，帰国し日本の中学校に在籍していれば制限はない。
- (7) 変更点
  - ・一般選抜の学力検査は1回（マーク式）。（令和5年度入試から）
  - ・一般選抜の面接の実施は学校により判断。（令和5年度入試から）
  - ・推薦選抜と一般選抜は別日に実施。（令和5年度入試から）
  - ・特色選抜が始まった。（令和5年度入試から）
  - ・Web出願。（令和6年度入試から）

### 3 海外在住生徒の編入学

- (1) 編入学は随時実施。ただし，編入学を認める時期は4月1日から翌年1月8日まで。
- (2) 試験内容は，編入学考査と面接。
- (3) 出願資格は，継続して1年以上海外在住かつ帰国後1年以内。
- (4) どの高校でも出願可能だが，受け入れ可能な人数制限がある。
- (5) 出願手続きは，愛知県教育委員会及び志願先の高校に相談し，必要書類を揃える。
- (6) 編入学考査は，「その学校の授業についていけるか」を見る。  
※科目や出題範囲は各学校が定める。（豊田西高校は，国・数・英）
- (7) 編入学考査は，1度につき1校のみ受検。  
※不合格の場合，別の学校に出願。
- (8) アドバイス
  - ・日本の中学校の学習内容をしっかりと身に付けておくこと。
  - ・海外でも受けられる通信添削や模擬試験等を活用すること。

### 4 最後に

- ・本校の生徒も学習だけでなく，部活動・行事等に頑張っており，希望の進路に進んでいる。
- ・今後の見通しを立て，早めに学校，愛知県教育委員会へ相談するとよい。

### 4 情報交換会

トヨタツアーリストの山崎秀哲様，豊田西高等学校教頭の嶋田好克先生，教務主任の今田祐之先生，在外教育施設（日本人学校等）で勤務経験のある小川雅美先生と柴田尚希先生に相談役として参加していただいた。また，体験談をお話いただいた生徒・保護者も加わり，参加者はそれぞれブースに分かれて情報交換を行った。



<受検に関する質疑応答>

参加者は複数のブースを回り，積極的に質問する様子が見られた。豊田西高校の先生方には帰国のタイミングや入試制度についての質問が多く寄せられた。その他のブースでは現地の学校選びや学習方法，日常生活

や英語学習などについての質問が寄せられた。

アメリカの出国予定と帰国の参加者が多く、体験談発表者のブースは相談者が途切れることなく複数で懇談する様子が見られ、他の参加者からの質問も参考になる様子であった。

帰国間もない参加者が、体験談をお話いただいた保護者の方へ熱心に質問したり、同じ国へ出国予定の参加者同士や、帰国者と出国予定者の方が話したりする姿も見られ、終了間際まで活発な情報交換が行われた。

会の始めは緊張した様子の参加者も多かったが、情報交換や相談を通して打ち解けた様子が見られ、大変有意義な会となった。

## 5 小学生交流会

### (1) 工作・ゲーム(折り紙・魚釣り・福笑い・バランスとんぼ・とよたかるた)

小学生の部では、子どもたち同士の交流を深めるために、工作とゲームを行った。工作は日本の遊びに親しんでもらおうと、折り紙・魚釣り・福笑い・バランスとんぼの4つを行った。かるたは豊田市に親しみをもってもらおうと、「とよたかるた」を選んだ。

折り紙コーナーでは、「クワガタを作ろう」や「カメラを折ろう」など、思い思いに好きなものを折っていった。活動しながら委員や学生ボランティアと少しずつ会話をし、子どもたちの緊張も解れていった。

魚釣りコーナーでは、色画用紙や紙コップを使い、海の生きものを作り、釣りをした。サメ・アジ・クラゲなど、豊かな発想で海の生きものを作っていた。ひとつ完成すると、「もっと作りたい」といくつも海の生きものを作っていた。折り紙を通して話せるようになった子同士で、一緒に作ったり釣ったりして楽しんでいる様子が見られた。

福笑いコーナーでは、魚釣りですぐに仲を深めた子どもたちが、おたふくの目・鼻・口・眉毛を作り、目を閉じて置く役と、案内する役に分かれて楽しんでいた。

バランスとんぼコーナーでは、画用紙のトンボに思い思いの色を塗り、バランスよく仕上がるように、慎重に切り抜いていた。

かるたコーナーでは、工作で友達になった6名全員が自然と集まり、読み手と取り手を交代しながら楽しんでいた。豊田市にまつわる内容のかるたなので「これ知ってる！知ってる？」「行ったことがある」とかるたをきっかけに会話が生まれていた。かるたではこの日一番の盛り上がりを見せ、どの子ども遊びの中で交流を深め、和気あいあいと楽しく過ごすことができた。



<何を折ろうかな>



<今日一番の盛り上がり>

### (2) 感想・意見(参加者アンケート結果より)

#### 【出国を予定している児童】

- ・外国に行くときに飛行機が楽しみ。友達ができるか心配。日本に帰ってくるときに3年生だから楽しみ。(アメリカ・5歳)
- ・今日は楽しかった。心配していることはない。(アメリカ・2年生)
- ・今日は仲良くできて、どのゲームも楽しかった。タイに行くときに英語がしゃべれるかとても心配。日本に帰ってくるときは、自分が英語をしゃべったり友達ができたりしているのが楽しみ。(タイ・4年生)

### 【帰国した児童】

- ・今日は友達ができた。今日のはかるたが楽しかった。外国で困ったことも、日本に帰ってきて困ったこともない。(アメリカ・2年生)
- ・今日は友達ができた。外国ではプールが楽しかった。日本に帰ってきて友達と遊んだことが楽しかった。(アメリカ・4年生)
- ・今日は楽しかった。外国で困ったことは、最初は英語が分からなかったこと。日本に帰ってきて楽しかったことは、学校行事(キャンプなど)と、色々な場所を巡ったこと。(アメリカ・6年生)

## 6 まとめ

### (1) 感想・意見(参加者アンケートより)

- ・帰国後に高校入試を控えているので、海外帰国生徒選抜など、入試制度について知ることができ、参考になりました。高校入試について不安があったので、高校の先生と直接話ができる機会があり、よかったです。
- ・豊田西高の先生の話は大変興味深かったです。国・数・英の勉強をしっかりとおさえ、情報は早く取りに行かねばならないということが分かりました。
- ・中学生の体験談で、現地での実際の生活について話を聞いたことが大変有用でした。また、同じ境遇の他の保護者の方と交流ができ、よかったです。
- ・体験談でしか聞けない生の声や、帰国後の受験の話が参考になりました。特に豊田西高の先生や日本人学校の勤務経験がある方との懇談では、元々聞きたかった質問ができたのでよかったです。
- ・海外の学校の制度や悩みもピンポイントで聞くことができたので、本当にありがたい機会でした。
- ・海外での学校の選び方や、帰国後の進路選択に向けての準備・保護者の居住地の選び方などの話を聞くことができ、よかったです。
- ・日本人学校の勤務経験がある方より、補習授業校に入るタイミングなどの話を聞くことができ、不安が減りました。

### (2) 成果と課題

- ・昨年度より、懇談会開催のお知らせについて、きずなネットを利用し全家庭へ通知している。このことにより、保護者の手元に確実に情報が届くようになった。また、オンラインを利用し、参加者が直接申し込むことができ、各学校での集約作業が不要となった。昨年度、本年度と特に問題は起きていないため、次年度以降も継続していきたい。
- ・昨年度、各ブースでの懇談時、帰国後の高校受験に対する質問が多く、保護者からあったことを受け、豊田西高校のブースを2か所に分け設置した。本年度も高校受験に対する質問が数多く挙がったが、ブースを分けたことで十分に対応することができた。
- ・ブースに分かれての懇談時間を十分に確保したことで、各講師の方と保護者との面談を時間に追われることなく落ち着いて実施することができた。また、保護者同士で懇談している姿が多く見られ、そこでの情報交換が有益であったとの声もあり、この懇談時間が有効であることを改めて感じた。
- ・次年度以降、豊田西高校附属中学校に関する質問が挙がってくることで予想されるため、そのことに対応できるよう準備をしていく必要がある。
- ・これまで同様、年度によって出国する国の割合が異なるため、その都度、保護者のニーズに応じていくための工夫が必要である。

## Ⅱ 相談窓口の開設

# 帰国・出国児童生徒のための相談窓口

**お困りのことを相談してください**

**豊田市教育国際化推進連絡協議会**

豊田市教育国際化推進連絡協議会では、帰国・出国される児童生徒・保護者の方への相談窓口を3か所にて開設しています。これは、帰国・出国児童生徒の皆さんの学校生活を楽しく充実したものにするための相談窓口です。どうぞお気軽に御相談ください。

## 相談窓口および受付時間

### 【相談窓口1】

- 豊田市教育委員会学校教育課（事務局）
  - 電話（0565）34-6661
  - メールアドレス [gakkou\\_k@city.toyota.aichi.jp](mailto:gakkou_k@city.toyota.aichi.jp)
- <受付時間>  
月曜日～金曜日 午前8時30分～午後5時15分

### 【相談窓口2】

- 公益財団法人豊田市国際交流協会（TIA）
  - とよたグローバルスクエア（豊田産業文化センター3階）
  - 電話（0565）33-5931
  - メールアドレス [tia@hm.aitai.ne.jp](mailto:tia@hm.aitai.ne.jp)
- <受付時間>  
火曜日～金曜日 午前10時～正午 午後1時～午後4時

### 【相談窓口3】

- 外国人児童生徒等サポートセンター
  - 豊田市立保見中学校内
  - 電話（090）6355-2564
- <受付時間>  
月曜日～金曜日 午前8時30分～午後4時30分

# 3 外国人児童生徒等支援委員会活動報告

## I 外国人児童生徒等・保護者教育説明会

- 1 令和7年度の取組について
- 2 外国人児童生徒等・保護者教育説明会の概要
- 3 教育説明会の実際
- 4 成果と課題

## II リーフレット「夢にむかって」の改訂



## I 外国人児童生徒等・保護者教育説明会

### 1 令和7年度の取組について

外国人児童生徒とその保護者を対象にした教育説明会は、今年度で23回目を迎えた。対象を、小学生（5・6年生）から中学生までの幅広い学年の児童生徒及び保護者としていること、また、高校生や社会人として活躍している外国人の体験談や助言を聞いたり、グループ別相談の時間等を充実させたりしてきたことで、参加者からは大変好評を得ている。本年度も翻訳資料に加え、参加者の希望に合わせ6か国語の通訳を依頼し、可能な限り対応できるよう配慮した。

本年度の説明会には156名の参加希望者があった（表1参照）。これは、外国人児童生徒及びその保護者が、様々な悩みを抱えながら日本での生活に適應しようと努力していることの証でもある。本説明会を通して、日本での子育てや中学校卒業後の進路、また勉強方法等に関する情報を分かりやすく提供するとともに、外国人同士が情報を交換し、悩みを打ち明けて相談し合う場になればとも考えている。参加者の多様なニーズに応えられるように、説明会の準備を進めた。

### 2 外国人児童生徒等・保護者教育説明会の概要

- (1) 日時 令和7年7月19日（土） 午前10時から正午まで
- (2) 会場 豊田産業文化センター3階 豊田市国際交流協会ラウンジ
- (3) 参加状況（表1・2参照）

参加者の募集は、ポルトガル語、スペイン語、タガログ語、中国語、英語、ベトナム語、日本語の7言語の参加申込用紙を準備し、市内全小中学校を通して配布した。6月中旬から参加募集を行い、夏休み直前に再度、各学校を通して参加の確認を行った。

当日の最終的な児童生徒と保護者を合わせた参加者数は、昨年度より若干減ってはいるが105名あり、外国人児童生徒等・保護者の日本での進路や就職先等への関心の高さが感じられた。

昨年度と同様、フィリピンやベトナムといったアジア圏の国籍の参加者が増えていることが特徴である。

【表1 参加申込状況】（参考）昨年度申込者：合計208名

国籍	小学校			中学校			合計人数
	児童	保護者	計	生徒	保護者	計	
ブラジル	14	16	30	17	18	35	65
フィリピン	4	6	10	7	14	21	31
ネパール	0	0	0	1	1	2	2
中国	1	3	4	5	5	10	14
ペルー	4	5	9	5	6	11	20
ベトナム	5	7	12	1	2	3	15
モンゴル	0	0	0	1	1	2	2
インドネシア	1	1	2	2	2	4	6
韓国	0	0	0	0	1	1	1
合計	29	38	67	39	50	89	156

【表2 実際の参加状況】 (参考) 昨年度の参加者：合計114名

国籍	小学校			中学校			合計 人数	【講師】 衣台高等学校 教頭 中学校進路指導主事 11名  【学校日本語指導員】 ポルトガル語 4名 スペイン語 1名、中国語 1名 タガログ語 1名、英語 1名 ベトナム語 1名、日本語 1名  【体験発表者】 高校生 1名 (フィリピン) 社会人 1名 (東保見小教諭)  【主催者】 支援委員会委員 8名 市教委指導主事 2名  【参観者】 市内小中学校関係者
	児童	保護者	計	生徒	保護者	計		
ブラジル	12	12	24	13	14	27	51	
ペルー	1	1	2	4	5	9	11	
中国	2	4	6	4	4	8	14	
フィリピン	4	4	8	5	7	12	20	
ベトナム	1	3	4	1	2	3	7	
ネパール	0	0	0	0	0	0	0	
インドネシア	0	0	0	1	1	2	2	
モンゴル	0	0	0	0	0	0	0	
韓国	0	0	0	0	0	0	0	
合計	20	24	44	28	33	61	105	

(4) 会の流れと内容

◇主催者あいさつ

- ・ 豊田市教育国際化推進連絡協議会外国人児童生徒等支援委員長

◇第1部 全体会「外国人児童生徒等教育の現状と進路について」

- ・ 卒業後の進路について・・・支援委員会委員
- ・ 高校での外国人生徒の様子について・・・衣台高等学校 教頭
- ・ 外国人体験発表・・・高校生 1名 (フィリピン)  
社会人 1名 (東保見小教諭)

◇第2部 グループ別・個別相談会

- ・ 衣台高等学校教頭
- ・ 中学校進路指導主事
- ・ 先輩である高校生が助言



<第1部 全体会の様子>



<第2部 グループ別相談会の様子>

### 3 教育説明会の実際

#### (1) 第1部 全体会 「外国人児童生徒教育の現状と進路」

全体会では、外国人児童生徒等支援委員が、外国人児童生徒教育の中学校卒業後の進路、外国人生徒等選抜入試について、愛知県立衣台高等学校の教頭から、衣台高校における外国人生徒への支援状況についての説明をした。その後、高等学校で学ぶ外国人生徒の体験談や助言を得る機会を設けた。会場では日本語での説明や話が理解できない方のために、言語別に11のグループをつくり、各グループに通訳を配置した。



〈熱心に話を聞く参加者〉

#### ア 中学校卒業後の進路について（外国人児童生徒等支援委員）

参加者が使用する言語に翻訳した資料を使い、中学校卒業後の進路や受験についての説明があった。

〈外国人児童生徒等支援委員 森先生の説明からの抜粋〉

##### ○中学校卒業後の進路について

- ・生活するためには、会社に就職をして給料をもらう必要がある。そのためには、コミュニケーションの力が欠かせない。
- ・日本で生活をするのであれば、中学校卒業後すぐに就職することは難しいため、高校等に進学をして学びを深めたり資格を取ったりする必要がある。進学先としては、国立・公立・私立高等学校（全日制普通科，全日制専門学科，全日制総合学科，定時制，通信制），専修学校等がある。
- ・母国で生活をする際にも、日本語ができると就職に有利になるため、日本語も母語も練習が必要である。



〈中学校の現状を説明する委員〉

##### ○外国人生徒等選抜入試について

- ・条件は、小学校4年生以上での編入学である。
- ・外国人生徒等選抜を行っているのは、衣台高校と豊田工科高校である。
- ・国語・数学・英語の学力検査があり、問題にはふりがながつく。
- ・公立定時制高校でも、同じように入試での配慮がされている。

##### ○進学に必要なお金

	私立専修	公立
検定料	約 14,000円	2,200円
入学金	約200,000円	5,650円
制服・教科書代等	約110,000～160,000円	
授業料等	約 40,000円	約8,000～15,000円

- ・授業料や入学金の補助がある。
- ・高校無償化については、支払い後にお金が戻ってくるため注意が必要。

## イ 高校での外国人生徒の様子について

衣台高校における外国人生徒の状況を初め、外国人生徒等選抜入試や校内での外国人生徒への支援についての説明があった。

<衣台高等学校教頭 平山先生の説明からの抜粋>

### ○衣台高校について

- ・普通コースと情報ビジネスコースがある。
- ・進路状況は、就職が56%，四年制大学が16%，専門学校が13%，短期大学が4%，その他が10%である。



<衣台高校について  
説明する平山先生>

### ○外国人生徒等選抜入試について

- ・出願資格に該当すれば、試験科目は国語、数学、英語での基礎的な内容と個人面接を行う。漢字にはふりがながある。「外国人生徒等選抜入試」と「一般入試」が別日で実施される。
- ・募集人員は、全体の5%程度である。
- ・令和7年度では、39名の生徒が外国人生徒等選抜入試で合格している。

### ○取り出し授業について

- ・約100人の外国人生徒等に取り出し授業を行っている。
- ・一部の授業に外国人生徒教育支援員が配置されている。
- ・定期考査の問題は普通クラスとは原則別である。問題にはふりがながついている。
- ・1年生は3講座、2年生は2講座の授業が設定されている。

### ○外国人生徒教育支援員について

- ・ポルトガル語、中国語、タガログ語、スペイン語、ベトナム語が話せる支援員が週に1、2回の学習支援を行っている。
- ・取り出し授業でのサポートを行っている（すべての授業に配置されていない）。
- ・成績やお金のこと、進路のことについて保護者対応を行っている。
- ・外国人生徒等の様々な相談にのり、精神的なサポートを行っている。

### ○衣台放課後日本語教室について

- ・週に1回、火曜日の授業後に日本語教室で日本語能力試験のサポート、教科学習支援などを行っている。
- ・指導者は、外国人生徒教育支援員、日本語教育支援員が行っている。

### ○外国人保護者進路説明会

- ・年1回に5月ごろに開催される。
- ・高校卒業後の就職システム、進学システム、奨学金や教育ローンについての説明を行っている。

## ウ 外国人体験発表について（高校生）

衣台高校に通学しているヒルブエナケーシーさんを招き、来日から現在に至るまでの自身の体験を話していただいた。

### <衣台高校 ヒルブエナケーシーさんの体験発表からの抜粋>

#### ○学校で困ったことについて

- ・学校のシステムに慣れること
- ・日本語ができない中でコミュニケーションをとること
- ・クラスメイトとの意思疎通ができないこと

#### ○困ったことをどうやって克服できたか

- ・日本語ができない私をクラスメイトはばかにしなかった。
- ・クラスメイトが日本語の文章の書き方、話し方などを教えてくれた。

→日本語が理解できるようになったのでクラスメイトと話せるようになった。

#### ○通っている衣台高校について

- ・多くの授業が少人数でわかりやすい。
- ・先生たちが生徒を必要な時に助けてくれる。
- ・生徒が安心できる配慮をしてくれる。
- ・外国にルーツがある生徒がたくさんいる。
- ・他の国の生徒と友達になり、その子の言語や文化も学べる。

#### ○将来について考えていること

- ・就職や進学など、自分が何をやりたいのか高校で考えて決めていきたい。
- ・今からいろいろなことに挑戦して、自分自身を成長させたい。

#### ○説明会に参加した児童生徒に向けて

- ・環境に適應することは簡単ではない。
- ・決して一人でなく、学校で多くの人に助けてもらった。
- ・いろいろな人と協力しながら頑張りたい。



<発表するケーシーさん>

## エ 外国人体験発表について（社会人）

東保見小学校で教員として勤める田畑ユキ先生を招き、来日から現在に至るまでの自身の体験をお話していただいた。

### <東保見小学校 田畑ユキ先生の体験発表からの抜粋>

#### ○幼稚園・小学校の頃

- ・日本語が話せず、友達ができずに泣いていた。
- 母親と一緒に勉強して7か月で日本語が話せるようになった。
- ・日本の友達をたくさん作り、友達に勉強を教えるようになった。
- 学校の先生になりたいと思うようになった。

#### ○中学校・高校・大学の頃

- ・自分の夢について自分で調べるようになった。
- 安いお金で行ける国公立大学を目指す。
- ・大学へ行くために1日10時間勉強をした。
- ・日本で生活する外国人の子どもたちを助けるために大学院へ進学する。

○説明会に参加した児童生徒に向けて

- ・ 100%分かることばを決めること。
- ・ 将来、日本か母国のどちらで働くのかを考えて、100%分かることばを決める。
- ・ 子どもが決めるのは難しいので、子どものために、保護者が決めることが大事。
- ・ AI やロボットができない仕事は、言葉（会話）ができる必要がある。  
→働くことができるように今から勉強をする。



<体験発表をする田畑教諭>

お金で未来をあきらめないでほしい。

- ・ 小学校、中学校、高校と大きくなるとどんどんお金が必要になるので、保護者は、お金を今のうちにためておくことが大事。
- ・ 大学の費用は、国立より私立の方が授業料が倍以上に高くなることもある。国立大学のほうが安いですが、倍率が高い。中学生のうちから勉強することは、お金の面でも大切になる。
- ・ 進学のためさまざまな奨学金が日本にはある。中には返済のいらぬ給付型もある。インターネットで調べたり、学校の先生に相談したりするとよい。

1. 100%わかる ことばを きめてください

	portugues100%	portugues50%
日本語		
日本語		

<説明資料の一部>

(2) 第2部 グループ別・個別相談会

言語や小中学校の別、相談しやすい人数を考慮して、11グループを編成した。各グループには、進路指導主事と通訳を配置した。さらに、高校に通う外国籍の4名もグループに加わったり、個別相談ができるように個別対応の進路指導主事を配置したりして、参加者からの質問に答えた。

◇主な相談内容

※ ( ) は講師の回答の概要

【学校選びについて】

- ・ 受験する高校を決める時期（出願の準備のために中3の12月には決めなければいけないが、早くからどんな高校があるか知っておくべき。）

【入試について】

- ・ 公立高校にはどんな種類があるか。（全日制、定時制、通信制。その中に普通科、専門学科、総合学科がある。）
- ・ 豊田市以外の高校も受けられるか。（公立高校の場合、普通科は西三河地区、専門・総合学科は県内の高校が受けられる。）
- ・ 公立入試で外国人選抜が不合格の場合、もう1度受検できるか。（後日行われる一般選抜が受検可能。）
- ・ 入試はテスト以外も見られるか。（評定等も評価。推薦の場合、部活実績や中学校で何をしてきたかも評価対象）

【お金について】

- ・ 公立高校の就学支援金の支給のタイミング。（衣台高校は一度納めてから還付。他公立は差額請求するところもある。）

- ・大学に入っても奨学金や補助金があるか。（日本学生支援機構などがある。奨学金についてまとめたホームページもある。）

#### 【高校での学習や進路について】

- ・アルバイトはできるか。（高校によってできるかできないか決まっているので、中学校の先生を通して聞いた方がよい。）

#### 【小中学校での学習について】

- ・日本語と一般的な勉強について比率はどれくらいか。（基本的に一般的な勉強を行い、分からない日本語が出てきたら聞く。日本語は日常生活で使うことが一番よい勉強法。）
- ・中学までに何をしておくのとよいのか。（入学時やその後の積み立てがあるので、お金を準備しておく。勉強が難しくなるが、小学校からの積み重ねなので今の内容を理解できるように勉強する。）
- ・中学校の部活は必ず参加しなくてはいけないのか。（希望入部制の中学校がほとんど。ただし部活でよい成績を取ると推薦受験でメリットになる。）
- ・塾に通っている人は多いのか。（塾に通わなくても高校に合格することができる。お金もかかるので、家では勉強できなかつたり、入試対策をしたかつたりする生徒が通っている。）

#### 【就職や将来のこと】

- ・いつから進路の話をすればよいか。（中1から担任に相談すればよい）

## 4 成果と課題

### （1）活動の成果について

本年度は105名の外国人児童生徒・保護者の方の参加があった。申込者156名で、参加率は67%であった。令和6年度は55%、令和5年度は50%であったことから興味・関心と期待感が年々高まっていることを感じた。

第1部の全体会では進路に関する説明を熱心に聞く姿が見られ、将来の生活を考える上での情報を求めている様子を感じられた。進学先となる高校生活の様子や学費などについても興味・関心が高かったように思われる。その中でも、特に関心が高かったのが、参加生徒の先輩にあたる高校生や教員になった先生の体験談である。夢や目標をもつことの大切さや学力を伸ばすことに尽力した経験等は、参加者にとって説得力があり、将来を考える上で大変参考になったようである。

過年度のアンケートから「もっと時間が欲しかった」という声が多く聞かれたこともあり、第2部のグループ別相談会をさらに充実させようと、時間の確保に努めた。その結果、様々な角度から自由に話をしたり、質問をしたりすることができた。全体会で聞いた内容を更に詳しく尋ねたり、日頃感じている疑問などを熱心に質問したりしている様子が見られた。また、高校生ボランティアが実際の高校生活について話す場面もあり、参加者からは大変好評であった。

### （2）検討課題について

参加申込みをもとにグループ分けをしているが、当日の参加不参加で実際のグループの人数が大きく変わってしまう。同じ言語なら、人数の少ないグループに移動してもらうこともできるが、実際には言語が違うので不可能である。

また、参加率を上げる工夫も必要であると感じた。保護者への参加依頼を教務主任から声をかけてもらい、より多くの外国人児童生徒等に外国人児童生徒保護者説明会の存在を知ってもらえるようにした。来年度以降、より多くの外国人児童生徒等の保護者に参加してもらえるように情宣方法を考え、呼び掛けていきたい。



## Ⅱ リーフレット「夢にむかって」の改訂

昨年度に続き、今年度もリーフレット「夢にむかって」の見直しと改訂を行った。今回はそれほど大きな変更は無かったが、感染症蔓延等の理由で見直された学校行事の変更点や価格高騰による教材等の値段など、細かいところを点検した。「夢にむかって」は、ふりがなもついており、外国人児童生徒等保護者にとって日本の学校の様子が分かりやすく作られている。今後も外国人児童生徒等とその保護者への情報提供の一助となれば幸いである。



☆ 中学校備品リスト ☆

小学校から中学校に進学すると、色々とお金が必要になります。中学校入学時に必要な物のリストです。入学時の参考にしてください。  
※学校の指定や、サイズの違いによって多少前後します。

○服装関係 (ある中学校の例)	
中学校では学校で指定された制服や体操服を着用します。	
【男子】	
・冬用制服上下	¥ 30,000
・夏用制服上×2 (洗濯用に2枚で計算)	¥ 8,000
・夏用制服下	¥ 7,000
【女子】	
・冬用制服上下	¥ 38,000
・夏用制服上×2 (洗濯用に2枚で計算)	¥ 20,000
・夏用制服下	¥ 15,000
【共通】	
・ジャージ上下(洗濯用に2枚で計算)	¥ 19,500
・夏用体操服上×2 (洗濯用に2枚で計算)	¥ 6,000
・夏用体操服下×2 (洗濯用に2枚で計算)	¥ 6,000
○備品関係	
中学校では、使用する備品にも指定があるものがあります。色や形などの指定は学校によって違いますので、各学校で確認してください。	
・生徒手帳	¥ 300
・名札	¥ 400
・学校指定カバン	¥ 8,000
※リュック等で代用できる学校もあります。	
・サブバック	¥ 2,000
・学校用上履き	¥ 1,300
・体育館シューズ	¥ 3,500
○教材関係	
教科書以外に授業等で使用する教材です。学校や学年によって、使用するものに違いがあるので、多少の前後があります。掲載している内容は、市内のある中学校の2023年度のものであります。	
・副教材(教科テキスト、ファイル等)	¥ 13,000
・美術デザインセット	¥ 4,500
・アールトリコーダー	¥ 2,000

※その他、部活動で備品が必要になる場合があります。

# 4 国際理解委員会活動報告

## I 活動の概要

- 1 はじめに
- 2 令和7年度の実施  
(1)「豊田市版ユニバーサルデザイン（UD）授業チェックシート」の作成  
(2)現職教育で使える国際理解教育推進のためのパワーポイント資料の更新

## II 教材・資料の活用のために



# I 活動の概要

## 1 はじめに

国際理解委員会では、昨年度まで「どの学校でも、どの先生でも気軽にできる国際理解教育」を目指して、授業ですぐに使える指導案や教材、資料作りに取り組んできた。これまでの教材や資料等は、「II 教材・資料活用のために」で改めて紹介する。

今年度は、活動内容を本委員会で考える際、近年の豊田市の状況を調査委員会が取りまとめた数値・データなどから再度確認するところから始めた。豊田市では外国にルーツをもつ児童生徒が増加し、年々散在化が進んでいる。そのため、どの学校、どの学級にも支援を必要とする児童生徒がいることが当たり前になってきている実態が浮かび上がった。ここから捉えられることは、「外国にルーツをもつ子だから」といった「この子に必要な支援」だけを考えればよい時代ではすでにないということだ。そこで、どの子にとっても「あると便利」で「役に立つ支援」を増やし、個にとっては「なくてはならない支援」、つまりユニバーサルデザイン（UD）の視点をもった授業づくりを市内全校で大切にしていくことが今後より重要になってくると考えた。

学校の核は授業である。すべての児童生徒にとっての学びやすさを生み出すことは、過ごしやすさ、つまり居場所づくりにもつながる。そこで、誰もが「分かった!」「楽しい!」と感じられる授業づくりにつながる資料を作成し、市内で共有する取組を進めた。

## 2 令和7年度取組

(1)「豊田市版ユニバーサルデザイン（UD）授業チェックシート」の作成  
(資料1)

令和2年度に、豊田市教育委員会研究推進校として研究発表を行った保見中学校と西保見小学校では、先進的にユニバーサルデザインの視点をもった授業づくりを推進してきた。また、外国にルーツをもつ児童が多く在籍する浄水小学校でも、同様の取組が進んでおり、それらを参考にして「豊田市版ユニバーサルデザイン（UD）授業チェックシート」の作成に取り組んだ。

ア チェックシートの記号について

「児童生徒自身のもっている力を発揮できる授業」「常に頭の中が動いている授業」「思考を促し深める授業」を目指し、授業づくりで「視覚化」「焦点化」「共有化」を意識すべき3つの視点として設定している。チェックシートではその3つを記号で表している。(※記号入りのチェックシートはPOTETOにて公開している)

### 【意識したい3つの視点】

「視覚化」・・・目から入る情報を活用した理解・表出を支援する。

「焦点化」・・・理解を深めるために学習する内容を精選する。

「共有化」・・・学習した内容を相互で高め合う。

## イ チェックシートの用語について

チェックシートには、授業を行うにあたって授業者が「準備するもの」「意識して行うこと」など、さらには外国にルーツをもつ児童生徒への「日本語支援内容」が、すっきりと見やすくなるように端的に用語で示している。ここでは、その用語についての補足説明をしていく。

「背景知識との関連」・・・・	授業の導入部分で、背景知識（ある知識を理解するのに必要な土台となる知識）と関連付けるために、「物語」風に授業を展開したり「体験」活動を取り入れたり、動画や表などで視覚的に意識付けしたりして、継続的な授業を展開すること
「リライト教材」・・・・	教材文を児童生徒が理解できる難度の日本語に書き直したもの
「ルビ」・・・・	漢字につける読み仮名
「板書の定型化」・・・・	「学習課題は赤枠で囲って黒板の左上」「本時で学んだキーワードは黄色で黒板の右下」といったように「黒板のどこに何が書いてあるか」を常に一定にしておくこと
「教師の言葉遣い」・・・・	児童生徒が理解しやすいように、教師の発話は「短文」「ゆっくり」「はっきり」「強調」などを意識した言葉遣いにすること
「リキャスト」・・・・	児童生徒の発言や発表の中の誤りを、意味を変えず、流れを止めずにフィードバック（気づかせ、修正）すること

基本的には授業づくりで押さえるべき一般的な内容がチェック項目として並んでいる。そのうえで、UDにつながるよう意識していくべき項目及び日本語支援として必要な内容を示している。

## ウ チェックシートの活用例

チェックシートの下部には「自己評価」の欄があり、「よくできたところ」「これからの課題」とセルフチェックができるシートになっている。セルフチェックだけでなく「自己評価」の「自己」の部分「他者」に変えることで、互いの授業を見合い指導・助言を受ける際にも使えるシートとなる。

また、統一したシートで授業をチェックすることにより、現職教育など学校全体で足並みの揃った授業づくりに取り組むことができる。

チェックシートの項目について、教師目線だけではなく、児童生徒目線で見ること、これ以外の具体的な手立てが各校でさらに広がり、豊田市全体で誰にとってもやさしい教育を推進する一助になることを願っている。

資料1 ※POTETO に掲載したチェックシートには3つの視点や4技能のマーク入り

### ユニバーサルデザイン (UD) 授業チェックシート

年 氏名	令和 年 月 日
教科	学習課題

【UDの視点】 視覚化… 焦点化… 共有化…   …日本語支援内容

全体	4技能を意識した流れ	<input type="checkbox"/> 読む <input type="checkbox"/> 書く <input type="checkbox"/> 話す <input type="checkbox"/> 聞く		
導入	見通しをもつ	<input type="checkbox"/> 学習課題の提示 <input type="checkbox"/> 流れの確認 <input type="checkbox"/> キーワード確認 <span style="float: right;"><input type="checkbox"/>日本語表現の説明</span>		
	前時とのつながり	<input type="checkbox"/> 復習の時間 <input type="checkbox"/> 前時の掲示 <input type="checkbox"/> Qubena		
	背景知識との関連	<input type="checkbox"/> 物語 <input type="checkbox"/> 体験 <input type="checkbox"/> 動画 <input type="checkbox"/> 写真/表/絵/具体物		
主 活 動	理解 支援 INPUT	内容や言語理解	<input type="checkbox"/> 教科書 <input type="checkbox"/> 具体物 <input type="checkbox"/> 動画 <input type="checkbox"/> 写真・イラスト <input type="checkbox"/> グラフ・表 <input type="checkbox"/> 物語・体験 <input type="checkbox"/> ワークシート等 <input type="checkbox"/> 動作化	リライト教材、ワークシートで <input type="checkbox"/> ルビ <input type="checkbox"/> 穴埋め <input type="checkbox"/> なぞり <input type="checkbox"/> 定型文 <input type="checkbox"/> 挿絵 <input type="checkbox"/> 簡単な日本語 <input type="checkbox"/> 母語での説明 <input type="checkbox"/> 対話
		板書	<input type="checkbox"/> 板書の定型化 <input type="checkbox"/> 色分け <input type="checkbox"/> 強調 <input type="checkbox"/> ネームプレート	<input type="checkbox"/> ルビ <input type="checkbox"/> 前時の語彙、キーワード掲示
		教師の言葉遣い	<input type="checkbox"/> 短文 <input type="checkbox"/> ゆっくり <input type="checkbox"/> はっきり <input type="checkbox"/> 強調	<input type="checkbox"/> 似た言葉の提示 <input type="checkbox"/> 用語の意味の確認 <input type="checkbox"/> 繰り返す <input type="checkbox"/> 母語表現
	表出 支援 OUTPUT	学習形態	<input type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> ペア・グループ <input type="checkbox"/> 全体	<input type="checkbox"/> 同言語のグループ <input type="checkbox"/> 児童生徒間支援グループ <input type="checkbox"/> タブレットでの言語調べ
		発言や発表を支える	<input type="checkbox"/> 話型 <input type="checkbox"/> ハンドサイン <input type="checkbox"/> 意図的指名 <input type="checkbox"/> 発言機会の確保	<input type="checkbox"/> 選択 <input type="checkbox"/> 並べ替え <input type="checkbox"/> モデル <input type="checkbox"/> 文型 (です、思います) <input type="checkbox"/> 構造 (起承転結など) <input type="checkbox"/> 母語→日本語へ
		発話を促す教師の支援	<input type="checkbox"/> 肯定 <input type="checkbox"/> 間、待つ <input type="checkbox"/> ジェスチャー <input type="checkbox"/> 強調 <input type="checkbox"/> ほめる <input type="checkbox"/> 切り返し	<input type="checkbox"/> リキャスト※ <input type="checkbox"/> キーワード提示 <input type="checkbox"/> 母語発表 (→日本語通訳)
振り返り	学習課題の達成度を確認	<input type="checkbox"/> 振り返りシート <input type="checkbox"/> 添削 <input type="checkbox"/> 板書 <input type="checkbox"/> キーワードの確認 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> Qubena	<input type="checkbox"/> 振り返りシートのリライト <input type="checkbox"/> 語彙 <input type="checkbox"/> 表現ノート	
	学習者が達成感を感じる評価	<input type="checkbox"/> 自己評価 <input type="checkbox"/> 相互評価 <input type="checkbox"/> 認めるコメント <input type="checkbox"/> シール <input type="checkbox"/> 作品掲示		

※リキャスト…発話の誤りを、意味を変えず、会話の流れを止めずにフィードバック (気づかせ、修正) する。

自己評価

【よくできたところ】	【これからの課題】
------------	-----------

(2) 現職教育で使える国際理解教育推進のためのパワーポイント資料の更新  
 令和5年度に作成した資料については、最新の数値や内容に更新している。  
 (POTETO での掲載場所については、「Ⅱ 教材・資料活用のために」を参照  
 のこと)

**豊田市の国際化の現状 外国人児童生徒等の理解の推進**  
 ～誰一人取り残さない教育の実現に向けて～  
 豊田市教育国際化推進連絡協議会 国際理解委員会

**豊田市の外国人人口の推移** (8年10月3日現在)  
 長期的に増加傾向  
 平成20年9月 リーマンショック  
 令和元年 入管法改正  
 令和3年 新型コロナウイルス  
 資料：住民基本台帳・外国人登録(各年10月1日現在)  
 ※2011年以降は外国人登録、2012年以降は住民基本台帳

出身国・地域	割合
1位 ブラジル	30.6%
2位 ベトナム	18.5%
3位 フィリピン	11.6%
4位 中国	10.4%
5位 インドネシア	6.6%

ベトナムの人口が増加中

出身国・地域数は76か国あり、多様な国から来訪している。  
 資料：住民基本台帳 2025年5月1日現在

**研修委員会・加配校研修ブロックリーダーを中心とした専門委員会と学校をつなぐサポート体制 集住共生ユニット ユニットアシスト体制**  
 【ユニットの運用方法】  
 ○研修ブロックリーダー(研修委員会委員4名)は、ユニットアシスト制の4つのユニットの窓口となる。  
 ○研修ブロックリーダーは、Teamsを活用して、情報共有を強化する。(集住共生ユニットの研修ブロックごとの学習会の実施、教材の共有、指導案の作成、指導方法)  
 ○研修ブロックリーダーは、情報発信とユニット校の相談役となる。

<全 18 スライドで構成しているパワーポイント資料(上記は更新した一部)>

## Ⅱ 教材・資料活用のために

より多くの学校で有効活用できるように、今後も POTETO 内を整理し、必要な資料がすぐに見つかり、利用できるように工夫していく。

### POTETO 掲載場所

- ① TOP ページ「外国人児童生徒等教育」をクリック
- ② 中央下段「豊田市教育国際化推進連絡協議会」の「国際協・国際理解委員会の取組」をクリック
- ③ 以下の資料が掲載中

豊田市教育国際化推進連絡協議会

国際協・国際理解委員会の取組  
 国際理解授業指導案  
 国際協・各専門委員会の取組  
 現職教育資料  
 国際協・各専門委員会の取組  
 国際理解授業指導案  
 国際協・各専門委員会の取組  
 活動報告集最新版

ユニバーサルデザイン授業  
 チェックシート、現教資料  
 を追加しました。

更新  
 NEW

【R5作成】小学校用 10分くらいでもできる国際理解教育パワーポイント.pptx  
 【R5作成・R6更新】現職教育用 国際理解教育の推進.pptx  
 【R5作成・R7更新】国際理解教育の推進(現職教育).pptx  
 【R6作成】小学校高学年以上や現職教育対象 5分でもできる国際理解教育「やさしい日本語」.pptx  
 【完成版】UDチェックシート.xlsx

※各校で必要に応じて加工し、活用できるようにxlsx, pptxで掲載。

# 5 研修委員会活動報告

## I 第1回豊田市外国人児童生徒等指導者研修会

- 1 研修会の概要
- 2 研修会の内容
- 3 成果と今後の課題

## II 第2回豊田市外国人児童生徒等指導者研修会

- 1 研修会の概要
- 2 研修会の内容
- 3 成果と今後の課題

## III 第3回豊田市外国人児童生徒等指導者研修会

- 1 研修会の概要
- 2 研修会の内容
- 3 成果と今後の課題



## I 第1回豊田市外国人児童生徒等指導者研修会

### 1 研修会の概要

- (1) 日 時 令和7年6月10日(火)
- (2) 場 所 豊田市教職員会館
- (3) 内 容 全体研修(講義) グループ別研修(ワークショップ型)
- (4) 参加者 小学校 38名 中学校 19名 その他 3名

### 2 研修会の内容

#### (1) 全体研修(講義)

「外国人児童生徒等教育の現状・特別の教育課程による

日本語指導について」

豊田市立保見中学校 主幹教諭 浦地 弘典 先生

「豊田市教育国際化推進連絡協議会(ユニットアシスト制)について」

豊田市立保見中学校 校長 佐藤 正一 先生

#### ア 講義内容

公立学校における日本語指導が必要な児童生徒は依然として増え続けており、愛知県は其中でも圧倒的に多い。また、多国籍化により言語や文化の多様性も大きく、文化的な背景を尊重し理解を深めることが重要である。

外国人児童生徒等の日本語の力を高めるために、特別の教育課程による日本語指導を行う。いろいろな立場から複数の目で多面的に捉えて、一人一人に合わせた個別の指導計画を作成することが大切である。また、個別の指導計画を小・中学校から高校へと引き継ぎ、外国人児童生徒等のキャリアや社会への参加、アイデンティティの形成を支えていく必要がある。



<講義を行う浦地弘典先生>

#### イ 参加者の声(振り返りシートより)

- ・外国人児童生徒等が全国的に増えていることや国籍が様々になってきていることをグラフ等で示していただき、実際のことがよく分かった。
- ・中学校を卒業して高校に入学した後どうしたいのか、外国人児童生徒等にとって早めのキャリア教育の必要性を感じた。
- ・ユニットアシスト制を活用しながら、外国人児童生徒等が安心かつ楽しく学校生活を送れるようにしていきたい。

- ・豊田市では、今回のような研修会が年に何回も行われ、外国人児童生徒等サポートセンターで作成したワークシートなどを活用できることが、本当にありがたい。また、昨年度からユニットアシスト制を見直し、T e a m s を活用して、いろいろな情報交換ができ、とても参考になっている。せっかくあるこうした豊田市の日本語指導の財産を上手に活用していきたいと思う。

## (2) グループ別研修（ワークショップ型）

### ア 研修内容

日本語指導に携わる年数や担任・教務などの立場に合わせて、A～Dの4つの研修グループに分かれて研修を行った。

#### 【Aグループ】（初心者コース 指導（1年目））

- ・日本語教育担当教員が目指すこと
- ・安心して学べる環境づくり

#### 【Bグループ】（中級者コース 指導（2・3年目））

- ・各学校の現状や課題について情報共有

#### 【Cグループ】（日本語指導4年目以上・担任）

- ・教育のユニバーサルデザイン化について

#### 【Dグループ】（教頭・教務主任）

- ・外国人児童生徒等教育に、学校としてどう取り組んでいくか

### イ 参加者の声（振り返りシートより）

- ・外国にルーツをもつ児童が在籍する通常の学級担任にとって、ユニバーサルデザインの授業研究は、大変よかったと思う。今後も担任の参加者が増えると、子どもたちへの支援につながっていくと思う。
- ・他校の教員と交流できたことで、各校の実態が大きく異なること、それぞれに課題を抱えて試行錯誤していることを共有できた。
- ・日本語指導つながり会（T e a m s を活用した学校間が交流できるシステム）への参加を果たし、これからはネットワークを活用して、より効果的な指導を模索していきたい。

## 3 成果と今後の課題

豊田市では外国人児童生徒等の散在化が進み、誰もが外国人児童生徒等と関わる可能性がある中で、今回のようにそれぞれの立場や日本語指導経験年数に合わせたグループ別研修を行ったことは、同じような状況にある教員同士が現状を報告し合い、必要な情報を得ることができるよい機会となった。

今後も、日頃から継続的に情報を発信し、互いの実践を共有していくことで、豊田市全体で外国人児童生徒等をサポートできるよう、さらにユニットアシスト制を発展させていきたい。

## Ⅱ 第2回豊田市外国人児童生徒等指導者研修会

### 1 研修会の概要

- (1) 日 時 令和7年8月19日(火)  
(2) 場 所 豊田産業文化センター 小ホール  
(3) 内 容 全体研修(午前:講義, 午後:ワークショップ&講義)  
(4) 参加者 午前の部:小学校 55名 中学校 22名 その他 46名  
          午後の部:小学校 18名 中学校 9名 その他 35名

### 2 研修会の内容

#### (1)「多様な子どもが輝ける学校づくりについて」

大阪大学大学院 准教授 櫻井 千穂 氏

#### ア 講義内容

##### (午前の部)

外国人児童生徒等を「日本語ができない子」ではなく、「日本語も母語もできる可能性のある子」として捉えることが重要である。言語発達は「聞く→話す→読む→書く」の順序で進むため、自然習得を重視する。トランスランゲージング教育論では、子どものもつすべての言語資源を戦略的に活用し、柔軟に使用させることで、学習意欲と全人的発達を促し、教師が「できる子」として見ること

で、学級全体の雰囲気よくなる。また、評価の目的は、覚えた日本語を測るのではなく、授業計画に生かすために「概念理解」「思考力」を捉え、包括的な言葉の発達ステージ(6段階):母語で培った力も含め、因果関係や論理的思考を評価と日本語習得ステップ(4段階):年齢に応じた日本語力を確認し、2つの軸で評価を行うこと。母語を尊重して文化的・言語的資源を最大限に活かし、教師のスタンスを変えることで、子どもの可能性を引き出す教育ができる。

##### (午後の部)

グループに分かれて、ワークショップ型の研修を実施した。発表テーマは児童生徒が興味をもちやすいものをそれぞれ考え、ポスターセッション形式として聴衆は自由に移動し、付箋でコメントを残すことで意見を共有した。

子どもの言語的・文化的資源を最大限に活用することが重要で、目標は「考える



<講義を行う櫻井千穂先生>



<午後の部の様子>

力（ステージ）」と「日本語力（ステップ）」の両面から設定した。子どもが「分かる・できる・楽しい」と感じられる授業を目指すとともに、子どもの居場所は「友達がいる在籍学級」であり、そこで輝けるよう支援する。

#### イ 参加者の声（振り返りシートより）

（全体研修）

- ・日本語習得を目的とした文法中心の指導ではなく、子どもがどの段階にいるのかを多面的に捉え、必要な支援を考えることが大切と感じた。
- ・「教員は概念を教えている」という言葉に衝撃を受け、言語習得だけでなく概念理解を重視する授業づくりを意識するようになった。
- ・母語と日本語は相互に影響し合い、どちらも成長の基盤となるため、母語を活かした支援も不可欠と感じた。
- ・「ことばの力のものさし」やDLAを活用し、子どもの力を過程的に把握し、支援につなげることが重要だと思った。
- ・「ことばの力のものさし」は言語発達段階を把握し、適切な支援を考えるためのツールであり、子どもの力を最大限に活かすように活用したい。
- ・取り出し指導と在籍学級の連携が重要であり、取り出し指導は「在籍学級で子どもが輝くための準備」であることを忘れないようにしたい。
- ・「ゆっくり話す」「短い言葉で話す」など、すぐにできる支援を先生方に意識してもらおうように広めていきたい。
- ・包括的なことばの発達ステージの「縦方向の支援」「斜め方向の支援」の違いを理解し、個々に応じた指導を行うように意識していきたい。
- ・アウトプットの重要性を再認識できた。日本語を学ぶ過程で、子どもが意欲的に関わるためにはアウトプットの間を意識的に設けることが大切と感じた。
- ・今回取り組んだ「グループで話し合い」や「ポスターセッション」で共有した授業計画を学校に持ち帰り、校内で広めていきたい。
- ・校内で多文化・多言語の子どもたちが発言できるよう、視点の共有と意識改革を進め、定期的な研修で最新情報をアップデートし続けていきたい。

### 3 成果と今後の課題

今回の研修を通して、外国人児童生徒等への支援は「日本語習得」だけにとどまらず、その子の文化的・言語的資源を最大限に活かし、概念理解を重視する教育であるべきだと再認識できた。教師の意識と授業デザインを変えることで、児童生徒の可能性を広げることができる。また、時間的制約の中で、どれだけ個別支援に時間をかけられるかを学校がチームとして考え、対応していくことが必要である。

今後は、母語も尊重しながら、児童が「できた」「わかった」と感じられる授業づくりを進めていくためにも、「ことばの力のものさし」やDLAを活用し、子どもの力を過程的に把握し、支援につなげることが重要である。

### Ⅲ 第3回豊田市外国人児童生徒等指導者研修会

#### 1 研修会の概要

- (1) 日 時 令和7年11月28日(金)
- (2) 場 所 豊田市教職員会館
- (3) 内 容 全体研修(講義) ブロック別研修・情報交換
- (4) 参加者 小学校 34名 中学校 19名

#### 2 研修会の内容

##### (1) 全体研修(講義)

「豊田市の現状とこれからの支援について」

学校教育課 指導主事 山本尚樹 氏

##### ア 講義内容

資料を提示されながら、公立学校に在籍する外国人児童生徒等の人数が、10年間で約6.2万人増加し、約13.9万人となっていること、その中でも愛知県は13,984人いて、全国で一番多いこと等の説明があった。豊田市内においては、保見中学校地区の外国人児童生徒等の人数が減少し、一方で都市部や山間部の中学校区の数が増加していることを説明されると、参加者からは驚きの声が上がった。

また、「外国人児童生徒等への日本語指導指導者養成研修」で学んだことを紹介された。外国人児童生徒等にとってわかりやすい授業を行うことが、すべての児童生徒のためになること。日常生活では困っていないように見えても、学習になれば支援が必要な児童生徒もいるため、児童生徒のもつ困り感に応じて、国際担当が授業の入り込み指導などを行うことなど、日本語指導を行う上で大切にしたい心構えについても話された。



〈講義を行う山本指導主事〉

##### イ 参加者の声(振り返りシートより)

- ・日本語指導は、語彙の学習ではなく、概念の学習であるという話が印象に残った。
- ・外国人児童生徒等一人一人の力を捉えるときに、その子の個性や家庭環境、生育環境にも目を向けて指導にあたるのが大切であると感じた。
- ・外国人児童生徒等に対しての間違った捉え方の例に心当たりがあり、恥ずかしく思った。外国であっても日本であっても同じ子どもであるので、個に応じた対応をしていきたい。
- ・外国人児童生徒等への支援は豊田市全体に関する事なので、多くの立場の先生方が研修を受けたほうがよいと感じた。
- ・学習言語の習得には時間がかかるため、子どもたちが困らずに、安心しながら学習に取り組める環境づくりが大事であることが分かった。

## (2) グループ別研修・情報交換

### ア 研修内容

#### 【A・B 合同グループ】(初心者・中級者コース 指導(1～3年目))

- 報告会(4月からの実践について)
  - ・多読プログラム
  - ・先行授業(国語科, 総合的な学習の時間等)
  - ・国際ランチ

#### ○読書プログラム体験

- ① 読み聞かせ
- ② あらすじを話す
- ③ あらすじをカードに書く
- ④ 好きな場面の絵と感想を書く



〈読書プログラム体験の様子〉

#### 【Cグループ】(連携コース 指導(4年目以上), 担任)

#### ○ユニバーサルデザイン授業の説明

- ・焦点化, 視覚化, 共有化
- ・教科のねらいの質を下げるのではなく, 多様な学び方をする子どもたちがねらいに迫れるように, つまづきのもととなる段差を少なくすることが大切である。

#### 【Dグループ】(教務コース 校長, 教頭, 主幹, 教務, 校務)

- ・国際理解教育の推進(今年度の取り組み, 来年度から始めたいこと)
- ・ユニバーサルデザイン(UD)の視点を意識した授業の取組について
- ・日本語教育担当教員との連携について
- ・外国人児童生徒等への進路指導について

### イ 参加者の声(振り返りシートより)

- ・読書プログラム体験がとても有意義で, 子どもの気持ちに寄り添えた気がする。一人一人の語彙が豊かになる支援をしていきたい。
- ・それぞれの担任の先生の実践や悩みを共有することができ, 一緒に考えながら学ぶことができた。自分一人では気付かなかったことや, これからできることがあることに気付き, 大変有意義な研修となった。
- ・日本語教育担当教員と学級担任と連携し, 学校全体で指導していくことが大切である。

## 3 成果と今後の課題

ユニットアシスト制の導入により, 共通の課題を相談しやすい体制が確立されてきた。研修会には, 日本語教育担当教員だけでなく, 学級担任や教務主任等の参加者が増え, 国際理解教育の推進に向けた意識の高まりを感じる。参加者からはユニバーサルデザインの視点を意識した授業の取組を進めていきたいという意見が多かった。

来年度の研修会については, 参加される先生方のニーズを的確に把握し, それに沿った内容となるように企画していきたい。